

## 平成19年4月の地震活動及び火山活動について

### [地震活動]

4月15日12時19分に三重県中部でM5.4の地震が発生し、三重県亀山市で震度5強、三重県鈴鹿市と津市及び伊賀市で震度5弱を観測しました。

3月25日に発生した「平成19年(2007年)能登半島地震」の余震活動は次第に減衰してきています。

全国で震度1以上を観測した地震の回数は213回(能登半島地震の活動91回を含む)日本及びその周辺におけるM4以上の地震の回数は145回でした。

国土地理院のGPS観測結果では、全国の地殻変動について特に目立った変動は見られません。

震度3以上を観測するなどの主な地震活動の概況は別紙1のとおりです。また、世界の主な地震は別紙2のとおりです。

### [火山活動]

噴火が観測されたのは、桜島及び諏訪之瀬島でした。

桜島では、南岳山頂火口でごく小規模の噴火が時々発生しました。諏訪之瀬島では2日に爆発的噴火がありました。

御嶽山では、火山性地震は、昨年12月から消長を繰り返しながらやや多い状態が続き、火山性微動も時々観測されました。今期間、火山性地震は少ない状態で経過し、火山性微動は5日以降観測されていませんが、火山活動は現在もやや活発な状況が続いていると考えられ、山頂付近では注意が必要です。

三宅島では、噴煙活動が活発で多量の火山ガス放出が続いています。

福德岡ノ場では、第三管区海上保安本部及び海上自衛隊が行った観測によると、火山活動によると見られる変色水が度々確認されました。

樽前山、硫黄島、薩摩硫黄島及び口永良部島では、火山活動のやや活発な状態が続いているいます。

日本の主な火山活動の概況は別紙3のとおりです。また、世界の主な火山活動は別紙4のとおりです。

注1：国土地理院のGPSによる地殻変動観測については、国土地理院ホームページの記者発表資料「平成19年3月～4月の地殻変動について」を参照ください。

<http://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/2007/goudou0508.htm>

注2：気象庁の地震活動資料には、防災科学技術研究所や大学等関係機関のデータも使われています。

注3：地震活動および火山活動の詳細については、地震・火山月報(防災編)2007年4月号(2007年5月末頃に刊行及び気象庁ホームページ掲載予定)をご覧下さい。

注4：平成19年5月の地震活動及び火山活動については、平成19年6月7日に発表の予定です。

# 2007年4月の主な地震活動<sup>注1)</sup>

番号	月 日	時 分	震央地名	深さ (km)	M	最大 震度	備考 / コメント
1	4月5日	20時39分	宮城県沖	12	4.5	3	
2	4月6日	15時18分	石川県能登地方	12	4.3	4	平成19年(2007年)能登半島地震の余震
3	4月10日	10時23分	宮城県沖	74	4.1	3	太平洋プレート内部で発生した地震
4	4月12日	22時50分	宮城県沖	12	4.5	3	No.1とほぼ同じ場所で発生した地震
5	4月14日	3時11分	八丈島東方沖	55	5.3	3	
6	4月15日	12時19分	三重県中部	16	5.4	5強	負傷者13名、住家一部破損122棟
7	4月15日	18時34分	三重県中部	17	4.6	4	No.6の余震
8	4月16日	9時55分	父島近海	47	5.1	3	
9	4月19日	0時07分	胆振支庁中東部	126	5.6	4	太平洋プレート内部で発生した地震
10	4月20日	9時26分	宮古島北西沖	22	6.3	3	
	4月20日	10時45分	宮古島北西沖	21	6.7	3	10時45分に発生したM6.7の地震で、宮古島・八重山地方に津波注意報を発表(津波の観測なし)
	4月20日	11時23分	宮古島北西沖	24	6.1	3	
11	4月21日	4時37分	沖縄本島近海	42	5.7	4	フィリピン海プレートの沈み込みに伴い発生した地震
12	4月23日	17時27分	留萌支庁南部	10	4.6	3	
13	4月26日	9時02分	愛媛県東予	39	5.3	4	建物被害1件 フィリピン海プレート内部で発生した地震
14	4月26日	11時55分	和歌山県北部	7	4.0	3	
15	4月27日	1時37分	十勝沖	58	5.2	4	太平洋プレートの沈む込みに伴い発生した地震
16	4月28日	9時27分	岐阜県美濃中西部	10	4.6	3	
17	4月30日	5時41分	奄美大島近海	13	4.9	4	

注1)「主な地震活動」とは 陸域でM4.0以上かつ震度3以上の地震、 海域でM5.0以上かつ震度3以上の地震、 M6.0以上の地震、 以前に取り上げた地震活動で、活動が継続しているもの。ただし、平成19年(2007年)能登半島地震の余震については震度4以上のものののみ掲載した。

## その他の活動<sup>注2)</sup>

月 日	時 分	震央地名	深さ (km)	M	最大 震度	備考 / コメント
5月2日	20時44分	石川県能登地方	7	4.7	4	平成19年(2007年)能登半島地震の余震
5月7日	9時29分	種子島近海	49	5.1	3	

注2)「その他の活動」とは、注1)の主な地震活動の基準に該当する地震で2007年5月中に発生したもの。

## ・地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会検討結果

2007年4月23日に気象庁において第251回地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会（定例会）を開催し、気象庁は「最近の東海地域とその周辺の地震・地殻活動」として次のコメントを発表しました。その後も地震・地殻活動等の状況に変化はありません。

現在のところ、東海地震に直ちに結びつくような変化は観測されていません。

全般的には顕著な地震活動はありません。浜名湖東方から静岡県中部の直下では通常より活動レベルの低い状態になっていますが、その他の地域では概ね平常レベルです。

東海地域及びその周辺の地殻変動には注目すべき特別な変化は観測されていません。

### 本資料中のデータについて

気象庁では、平成9年11月10日より、国・地方公共団体及び住民が一体となった緊急防災対応の迅速かつ円滑な実施に資するため、気象庁の震度計の観測データに合わせて地方公共団体及び独立行政法人防災科学技術研究所\*から提供されたものも震度情報として発表している。

また、気象庁では、地震防災対策特別措置法の趣旨に沿って、平成9年10月1日より、大学や独立行政法人防災科学技術研究所等の関係機関\*\*から地震観測データの提供を受け、文部科学省と協力してこれを整理し、整理結果等を、同法に基づいて設置された地震調査研究推進本部地震調査委員会に提供するとともに、気象業務の一環として防災情報として適宜発表する等活用している。

なお、地震・火山観測データの整理結果については、「地震・火山月報（カタログ編）」に掲載している。

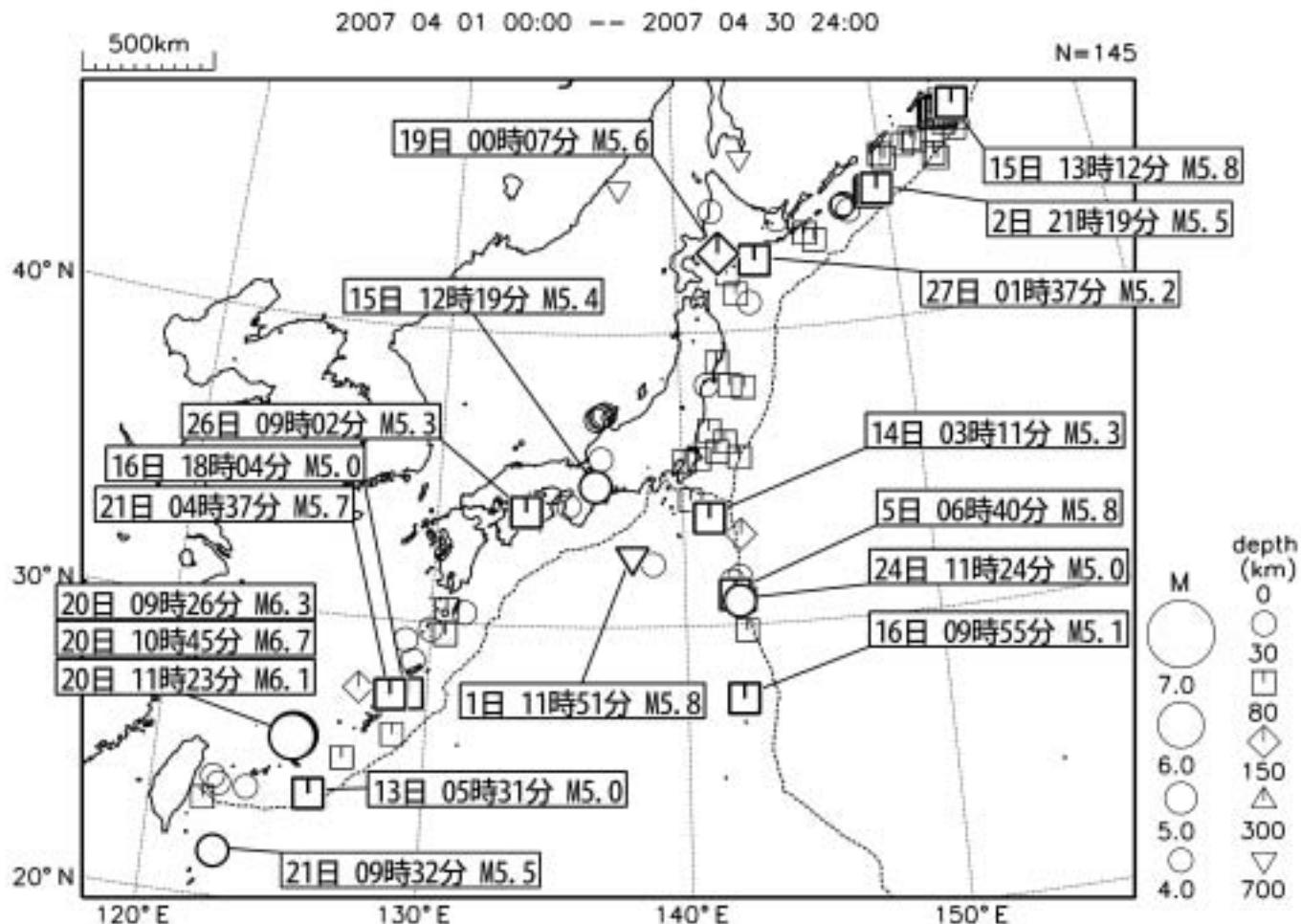
**注\*** 秋田県、埼玉県、新潟県、愛知県、大阪府、奈良県、和歌山県、岡山県、山口県、横浜市（神奈川県）（以上1府8県、1政令指定都市は平成9年11月10日から発表）、群馬県、福井県、静岡県、三重県、島根県及び愛媛県（以上6県は平成10年6月15日から発表）、青森県、山形県、茨城県、石川県、京都府、兵庫県、鳥取県、広島県、徳島県、熊本県、宮崎県及び鹿児島県（以上1府11県は平成10年10月15日から発表）、東京都、長野県（以上1都1県は平成11年7月21日から発表）、栃木県、千葉県、岐阜県、名古屋市（愛知県）（以上3県、1政令指定都市は平成12年1月12日から発表）、滋賀県（平成12年3月28日から発表）、富山県、香川県、大分県（以上3県は平成12年7月18日から発表）、佐賀県（平成13年3月22日から発表）、山梨県、川崎市（神奈川県）（以上1県、1政令指定都市は平成13年5月10日から発表）、高知県（平成13年7月19日から発表）、福島県（平成13年12月12日から発表）、岩手県、宮城県、神奈川県、福岡県、仙台市（宮城県）（以上4県、1政令指定都市は平成14年3月20日から発表）、北海道、長崎県（以上1道1県、平成14年7月29日から発表）、沖縄県（平成15年3月10日から発表）の47都道府県、4政令指定都市と独立行政法人防災科学技術研究所（平成16年5月26日から発表）。

**注\*\*** 平成19年4月末現在：国土地理院、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、独立行政法人防災科学技術研究所、独立行政法人海洋研究開発機構、独立行政法人産業技術総合研究所、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び横浜市。

また、富山・石川・岐阜・長野県を中心とする総合観測として、歪集中帯大学合同地震観測グループ（北海道大学・弘前大学・東北大学・千葉大学・東京大学地震研究所・名古屋大学・京都大学防災研究所・金沢大学・福井工業高専・九州大学・鹿児島大学）が行っている自然地震観測のデータを利用。

このほか、能登半島地震合同観測グループ（東京大学地震研究所、北海道大学、東北大学、名古屋大学、金沢大学、京都大学防災研究所、九州大学、鹿児島大学、防災科学技術研究所、産業技術総合研究所）が行っている自然地震観測のデータを利用。

# 2007年4月の全国の地震活動 (マグニチュード4.0以上)



三重県中部で4月15日にM5.4の地震があった。

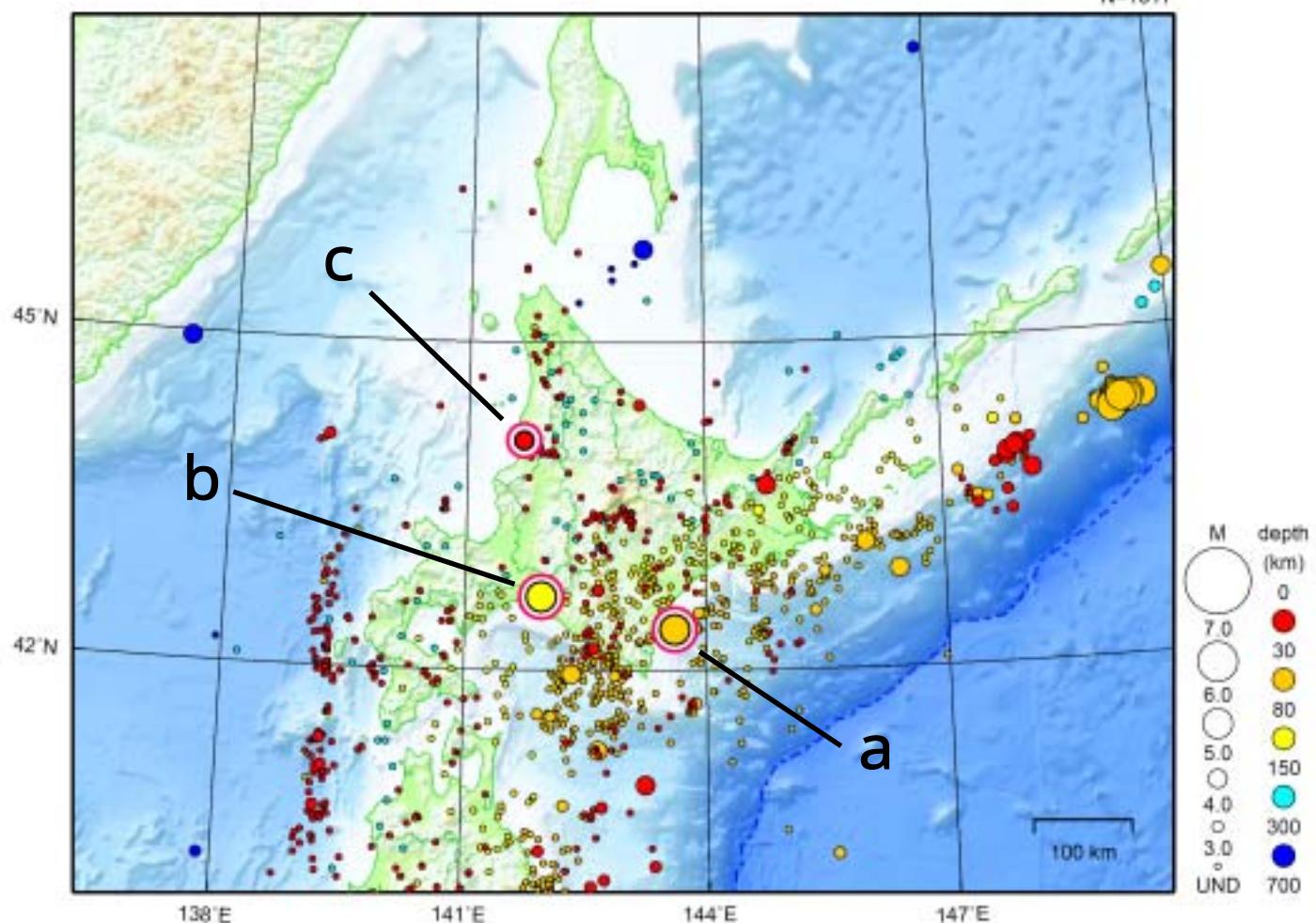
宮古島北西沖で4月20日にM6.7を最大とする、ややまとまった地震活動があった。

[図中に日時分、マグニチュードを付した地震はM5.0以上の地震、またはM4.0以上で最大震度5弱以上を観測した地震である。  
また、上に表記した地震はM6.0以上、またはM4.0以上で最大震度5弱以上を観測した地震である。]

# 北海道地方

2007/04/01 00:00 ~ 2007/04/30 24:00

N=1317

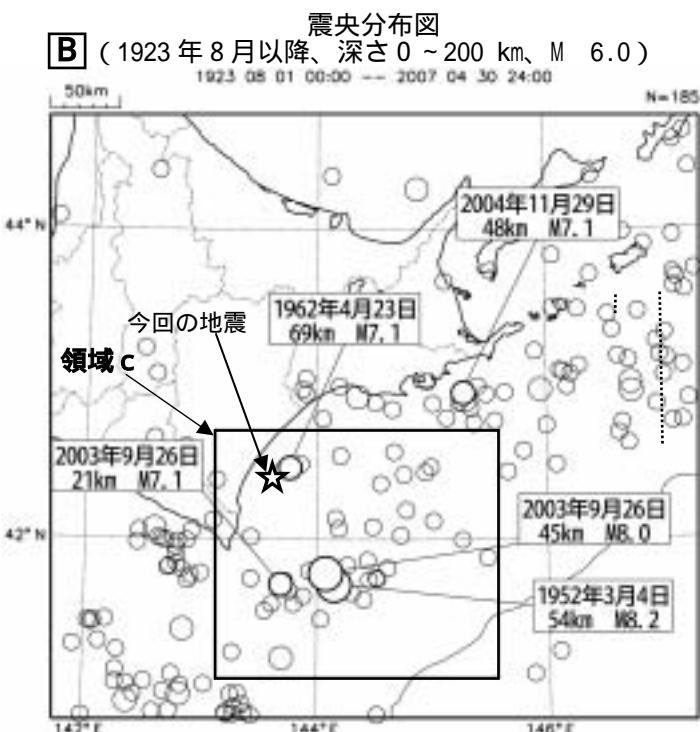
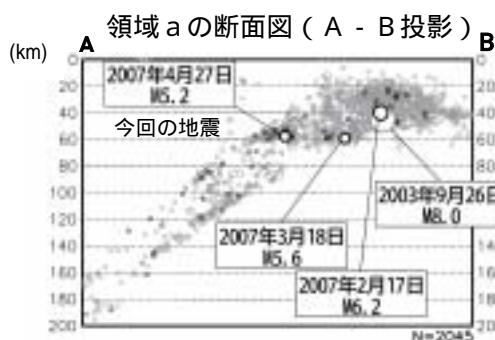
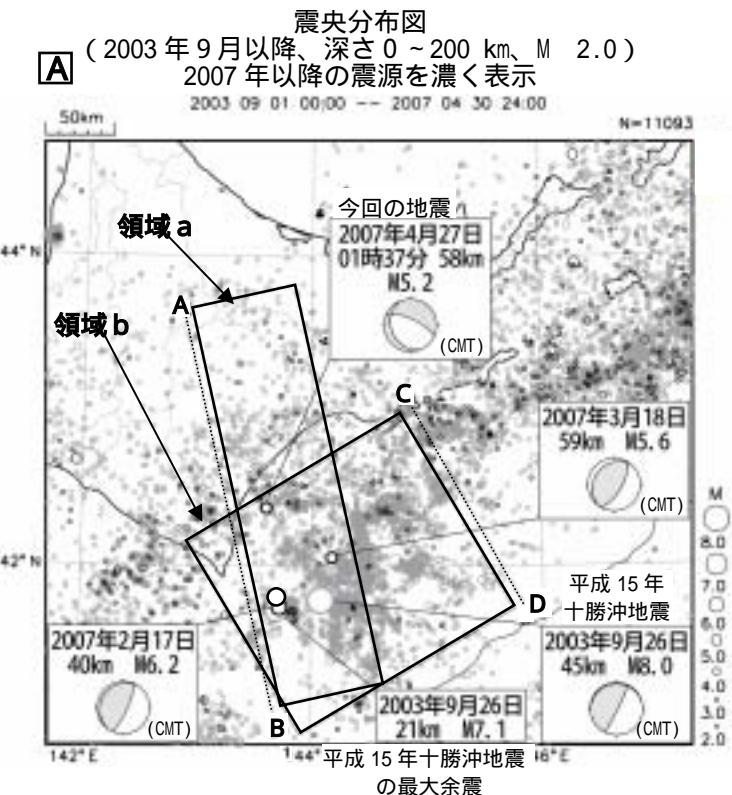


地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

- a ) 4月27日に十勝沖でM5.2（最大震度4）の地震があった。
- b ) 4月19日に胆振支庁中東部でM5.6（最大震度4）の地震があった。
- c ) 4月23日に留萌支庁南部でM4.6（最大震度3）の地震があった。

[ 上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。 ]

# 4月27日 十勝沖の地震

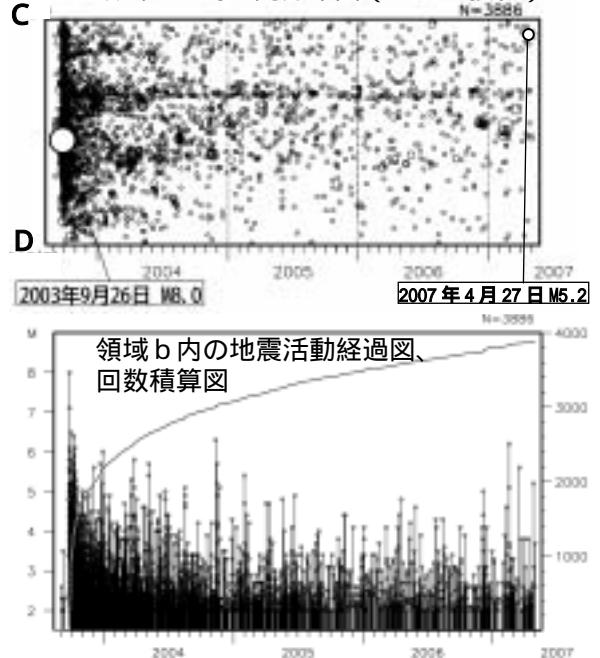


2007年4月27日01時37分に十勝沖の深さ58kmでM5.2(最大震度4)の地震が発生した。発震機構(CMT解)は北東-南西方向に張力軸を持つ型で、太平洋プレートの沈み込みに伴い発生した地震である。4月30日現在余震は収まっている。

今回の地震は、「平成15年(2003年)十勝沖地震」(M8.0、最大震度6弱)の地震の余震域の北端で発生した。

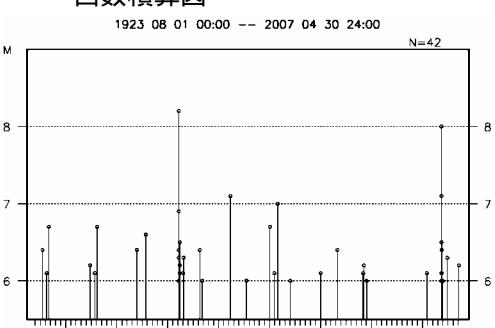
平成15年の十勝沖地震の余震域内では、2007年に入ってから、2月17日にM6.2(最大震度4)、3月18日にM5.6(最大震度3)の地震が発生している。(A)

領域bの時空間分布図 (C - D 投影)



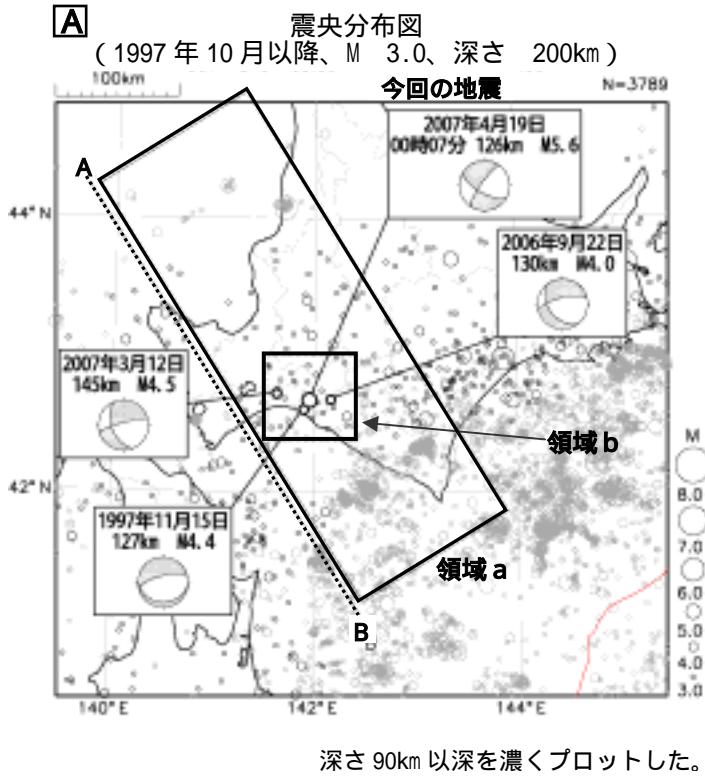
1923年8月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近では、1962年4月にM7.1の地震が発生している。(B)

領域c内の地震活動経過図、  
 回数積算図



# 4月19日 胆振支庁中東部の地震

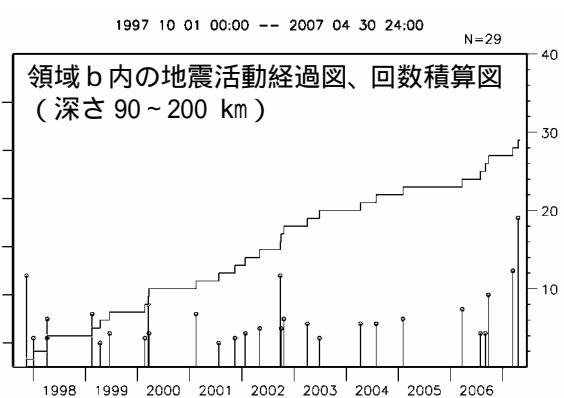
**A**



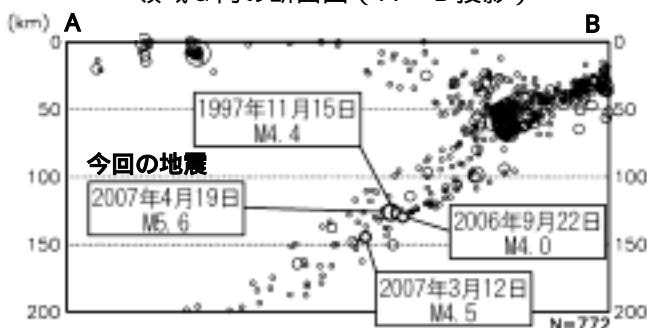
2007年4月19日00時07分に胆振支庁中東部の深さ126kmでM5.6(最大震度4)の地震が発生した。余震は観測されていない。

この地震は、太平洋プレート内部(二重地震面の下面)で発生した地震である。また、発震機構は北北西-南南東方向に張力軸を持つ型である。

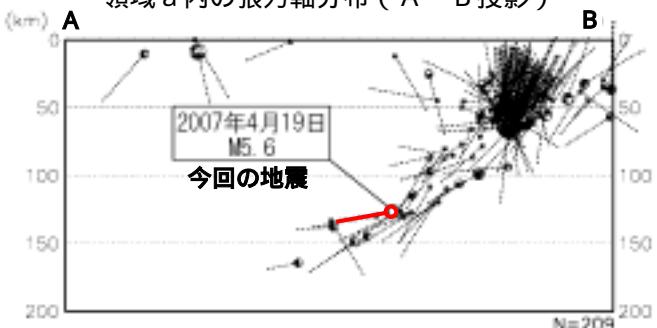
今回の地震の震源付近では、2007年3月12日にM4.5(最大震度2)の地震が発生している。(A)



領域 a 内の断面図 (A - B 投影)



領域 a 内の張力軸分布 (A - B 投影)

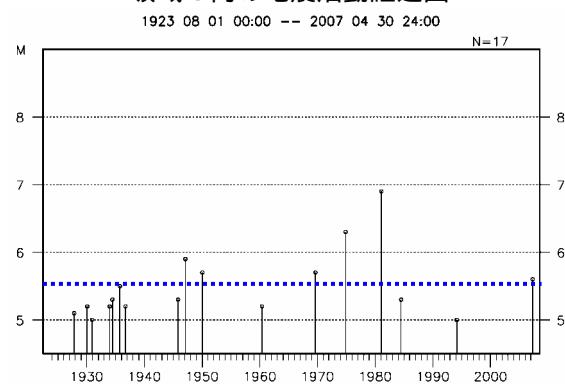


**B**

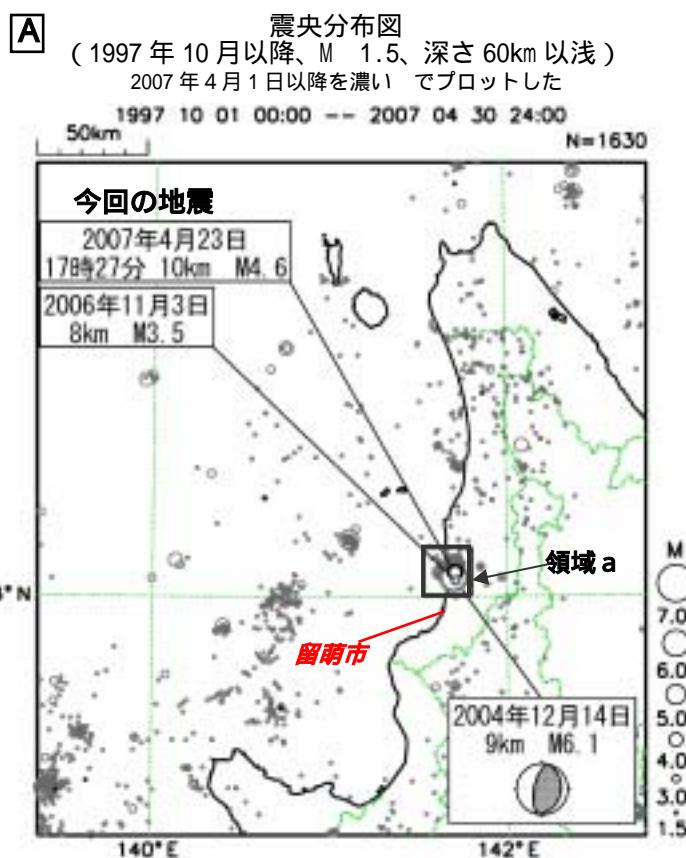


1923年8月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近でM5.5以上の地震が発生したのは、1981年1月23日のM6.9の地震(最大震度5)以来である。(B)

領域 c 内の地震活動経過図

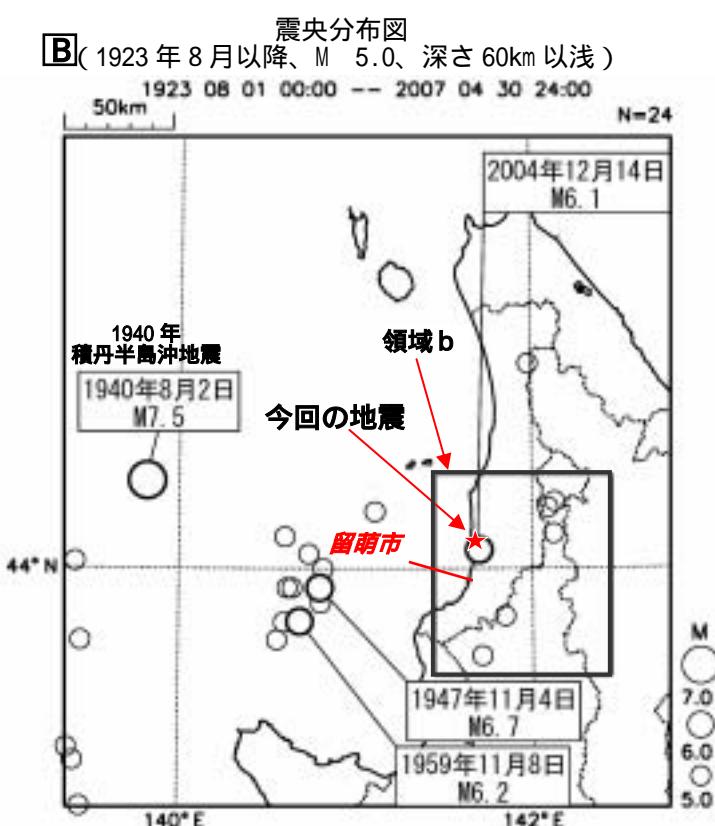


## 4月23日 留萌支庁南部の地震

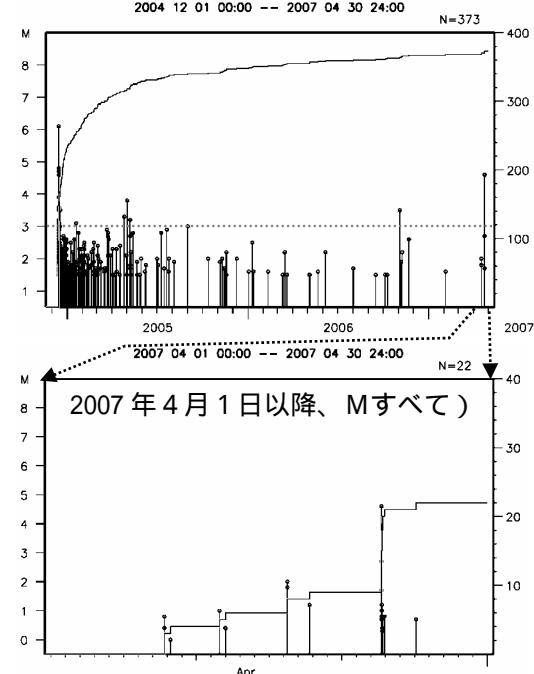


2007年4月23日17時27分に留萌支庁南部の深さ10kmでM4.6(最大震度3)の地震が発生した。この地震の直後に地震活動は一時的に活発となつたがその後は低調である。

今回の地震の震源付近では、2004年12月14日にM6.1(最大震度5強)の地震が発生しており、今回の地震はその余震域内で発生している。この地震以降、全体として地震活動は減衰してきているものの、2006年11月3日にM3.5(最大震度3)が発生するなどM3程度以上の地震が時折発生している(A)。

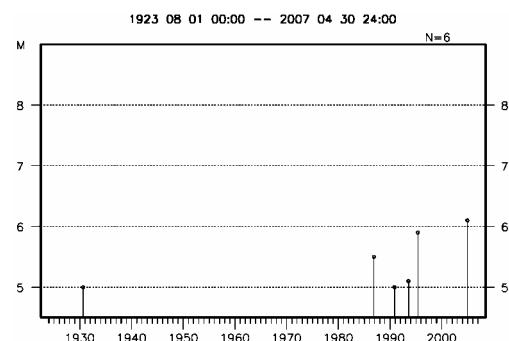


領域a内の地震活動経過図、回数積算図  
(2004年12月以降)



1923年8月以降、この付近ではM5を超える地震が6回観測されており、最大は2004年12月14日に発生したM6.1の地震(最大震度5強)である(B)。

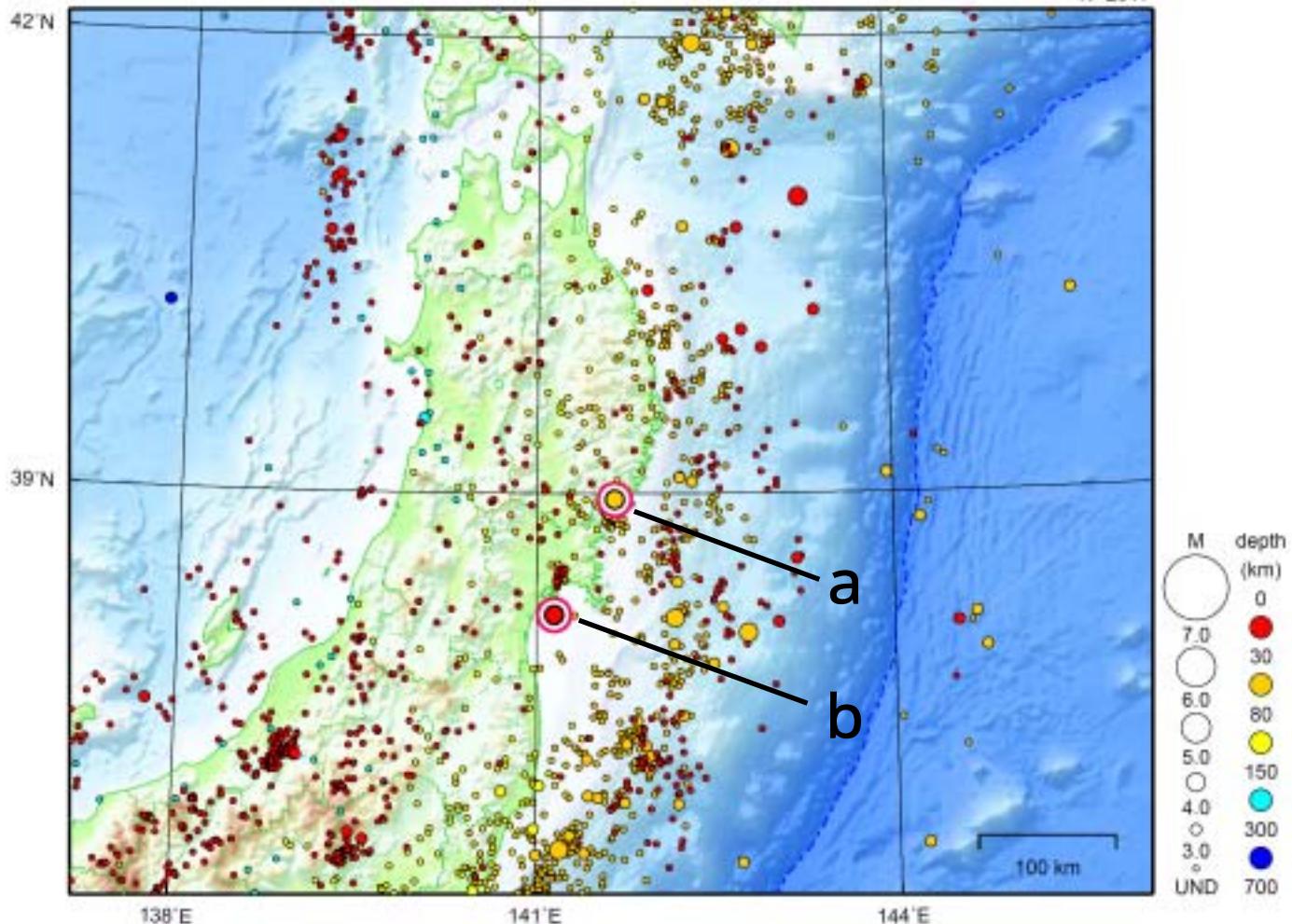
領域b内の地震活動経過図



# 東北地方

2007/04/01 00:00 ~ 2007/04/30 24:00

N=2017



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOPO2v2 を使用

- a ) 4月 10 日に宮城県沖〔岩手県沿岸南部〕で M4.1 (最大震度 3) の地震があった。
- b ) 4月 5 日と 12 日に仙台湾〔宮城県沖〕で、共に M4.5 (最大震度 3) の地震があつた。

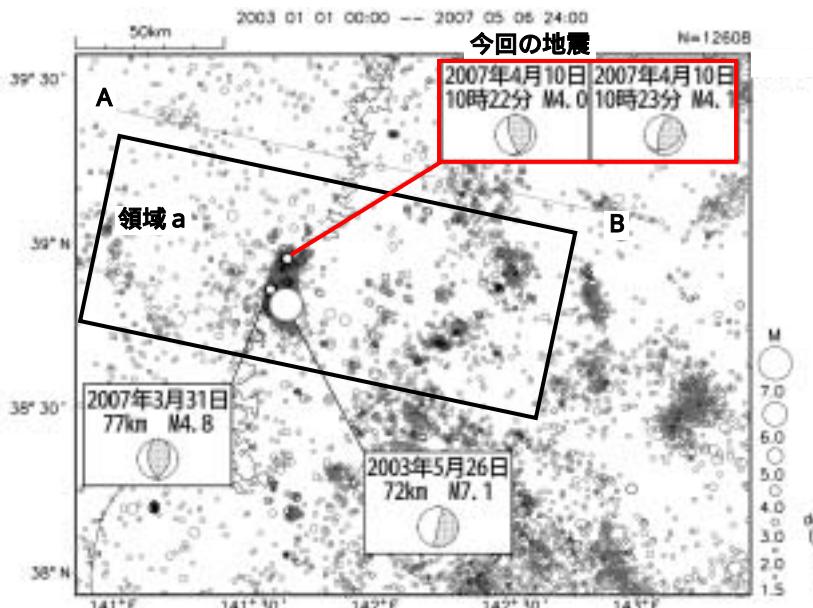
[ 上述の地震はM6.0 以上、陸域でM4.0 以上かつ最大震度 3 以上、海域でM5.0 以上かつ最大震度 3 以上のいずれかに該当する地震。 ]

# 4月10日 宮城県沖〔岩手県沿岸南部〕の地震

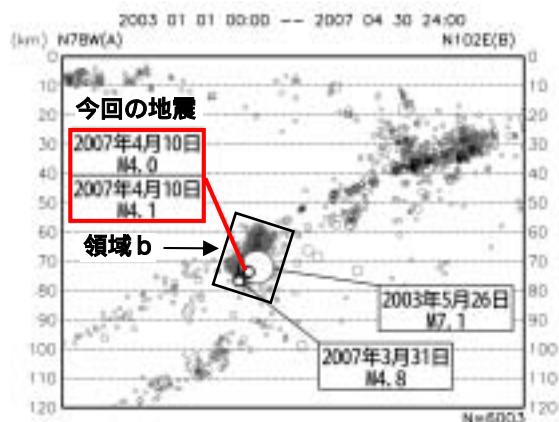
【A】震央分布図（2003年1月以降、M 1.5、深さ0～120km）

2007年1月以降は濃く表示

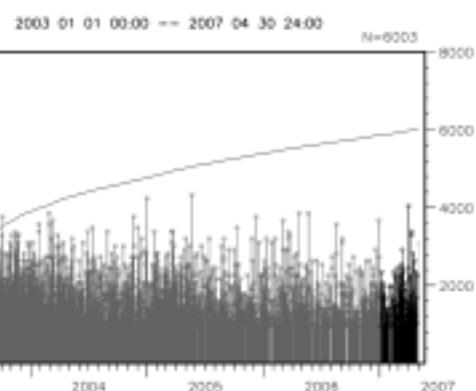
〔 〕内は気象庁が情報発表に用いた震央地域名



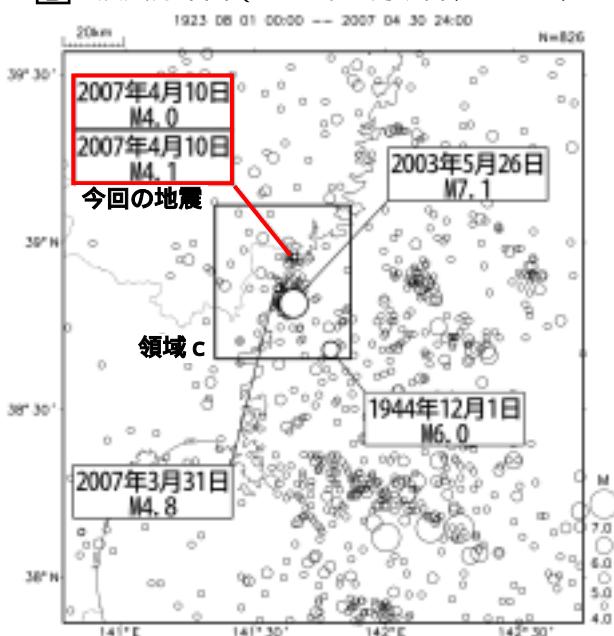
領域 a 内の断面図（A - B 投影）



領域 b 内の地震活動経過図、回数積算図

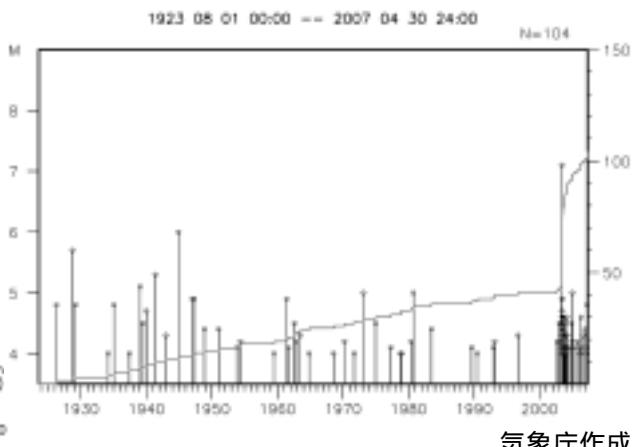


【B】震央分布図（1923年8月以降、M 4.0、30～120km）



1923年8月以降の活動を見ると、領域cでは2003年5月26日の地震以降、余震活動の活発な状態が続いている。(B)

領域 c 内の地震活動経過図、回数積算図

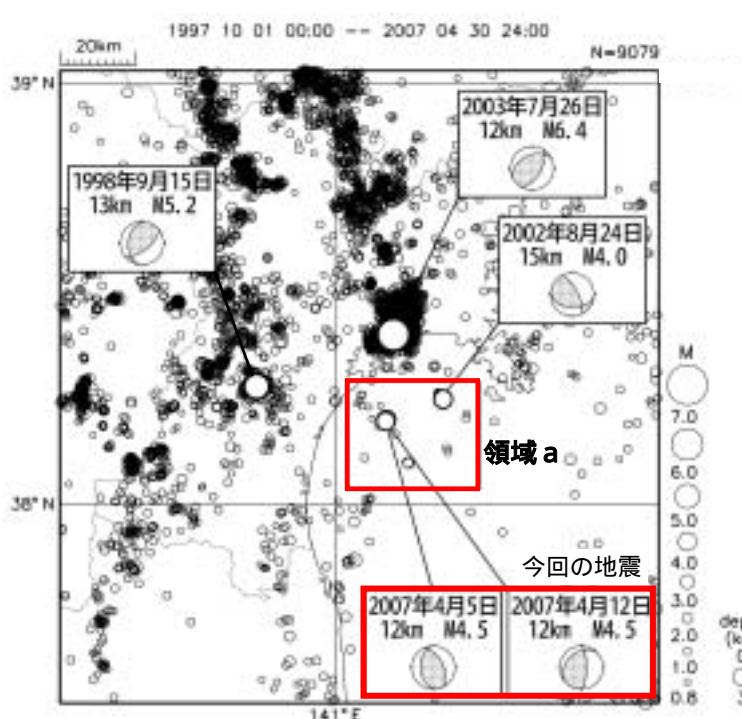


気象庁作成

# 4月5日、12日 仙台湾〔宮城県沖〕の地震

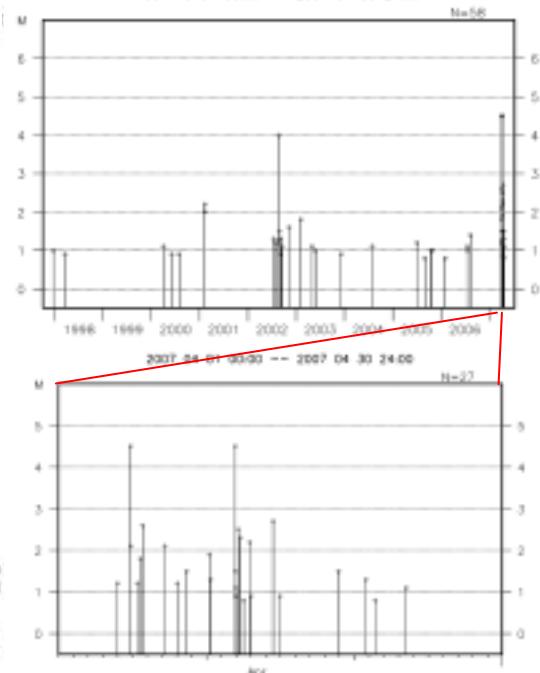
[ ]内は気象庁が情報発表に用いた震央地域名

**A** 震央分布図（1997年10月以降、M 0.8、深さ0～30km）



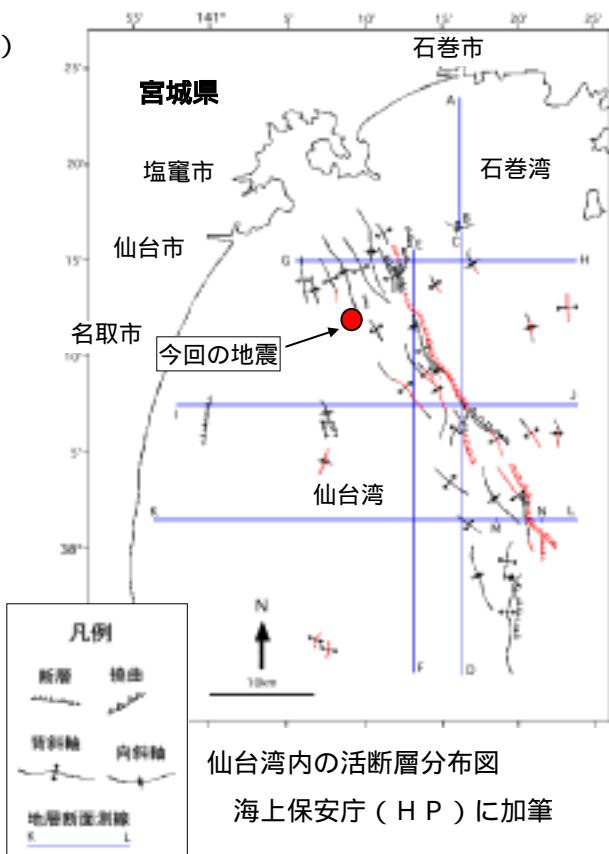
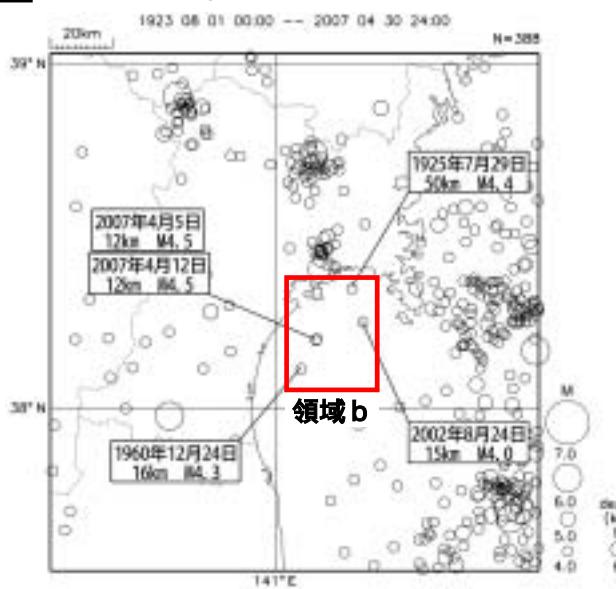
領域 a 内の地震活動経過図

1997 10 01 00:00 -- 2007 04 30 24:00



2007年4月5日20時39分と12日20時50分に、共に、仙台湾の深さ12kmでM4.5の地震（最大震度3）の地震が発生した。発震機構は、それぞれ東北東-西南西方向と東南東-西北西方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。この海域では海上保安庁による活断層調査で、第四紀に活動した形跡がある断層が知られており、今回の地震はその断層の近傍で発生した。（A）

**B** 震央分布図（1923年8月以降、M 4.0、0～60km）

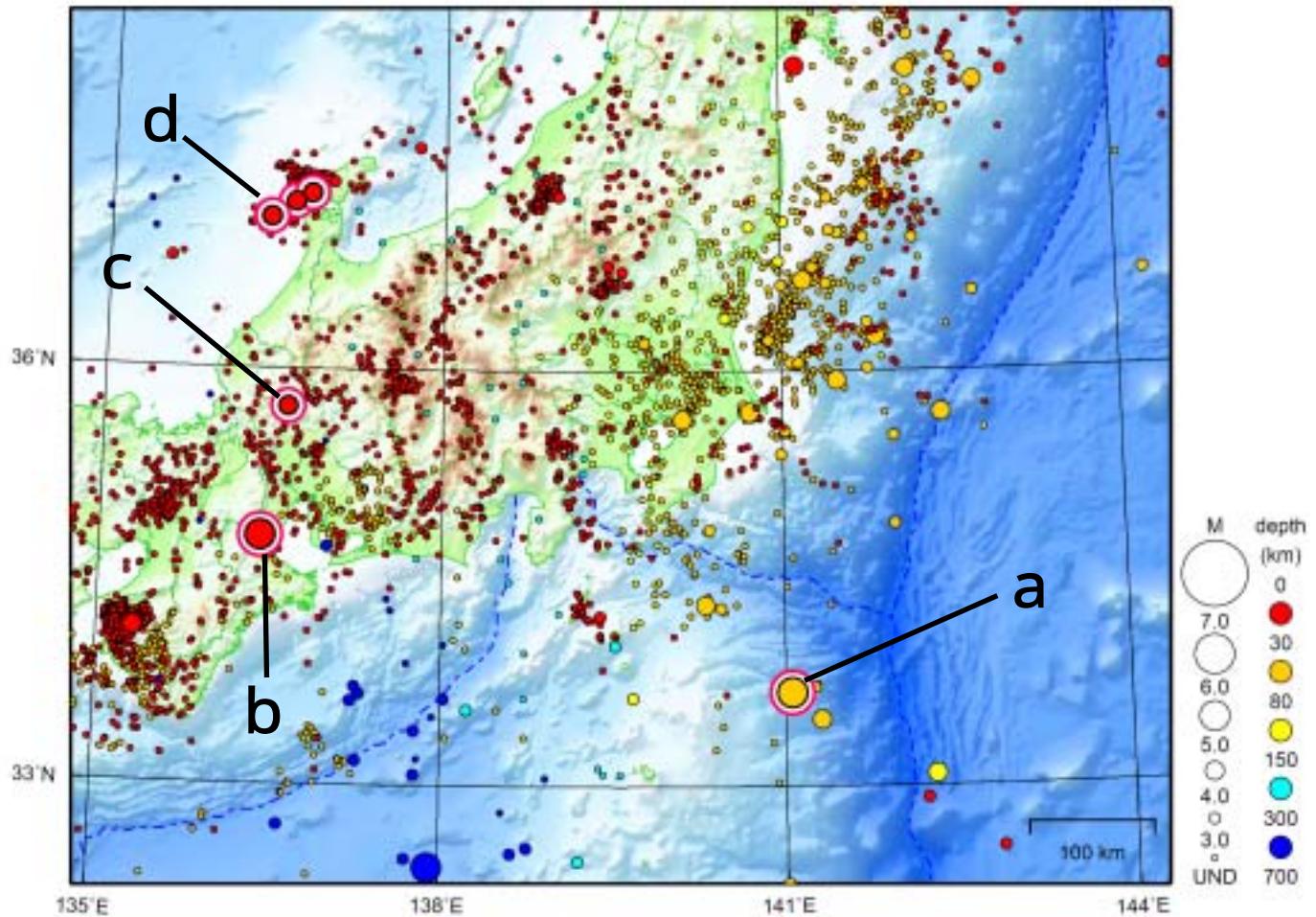


仙台湾付近でM4.0以上の浅い地震が発生することは珍しく、1923年8月以降では、今回を含め、5回しか観測されていない。（B）

# 関東・中部地方

2007/04/01 00:00 ~ 2007/04/30 24:00

N=8652

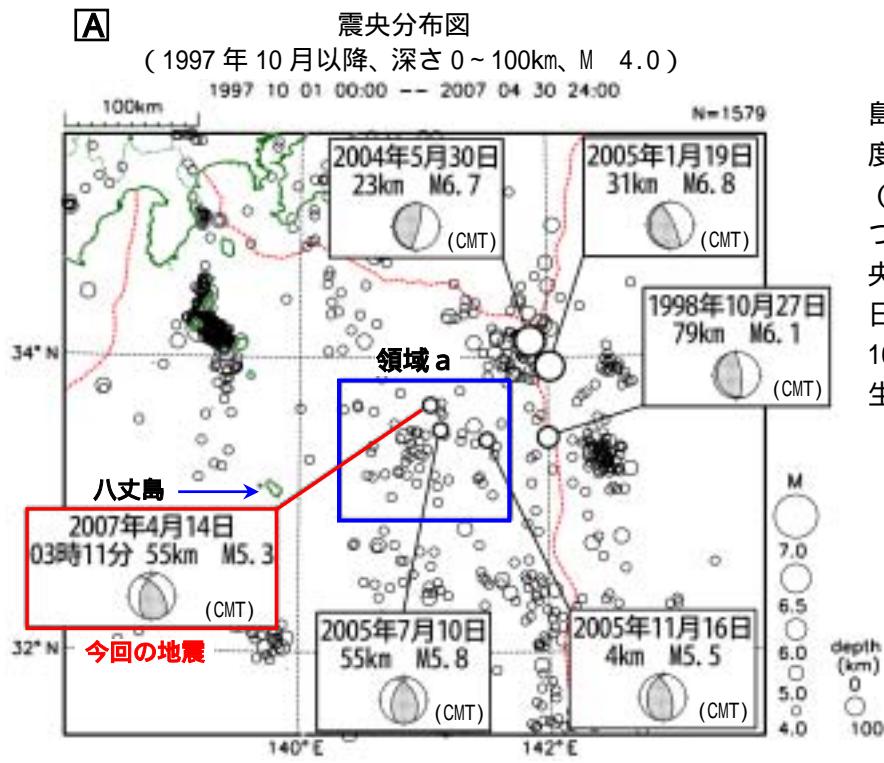


- a ) 4月 14日に八丈島東方沖で M5.3 (最大震度 3) の地震があった。
- b ) 4月 15日に三重県中部で M5.4 (最大震度 5 強) の地震があった。
- c ) 4月 28日に岐阜県美濃中西部で M4.6 (最大震度 3) の地震があった。
- d ) 能登半島地震の震源域では、4月 6日に M4.3 (最大震度 4) M4.7 (最大震度 3) など、余震活動が続いている。

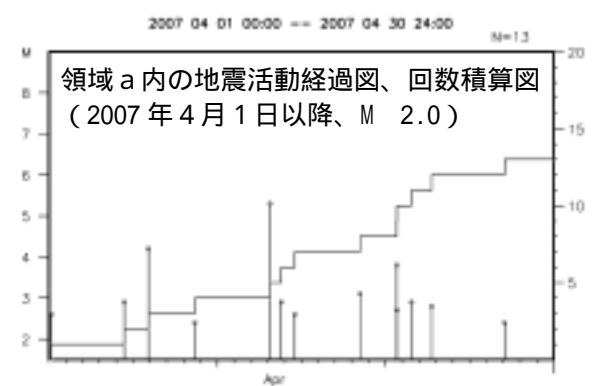
[ 上述の地震はM6.0 以上、陸域でM4.0 以上かつ最大震度 3 以上、海域でM5.0 以上かつ最大震度 3 以上のいずれかに該当する地震。 ]

# 4月14日 八丈島東方沖の地震

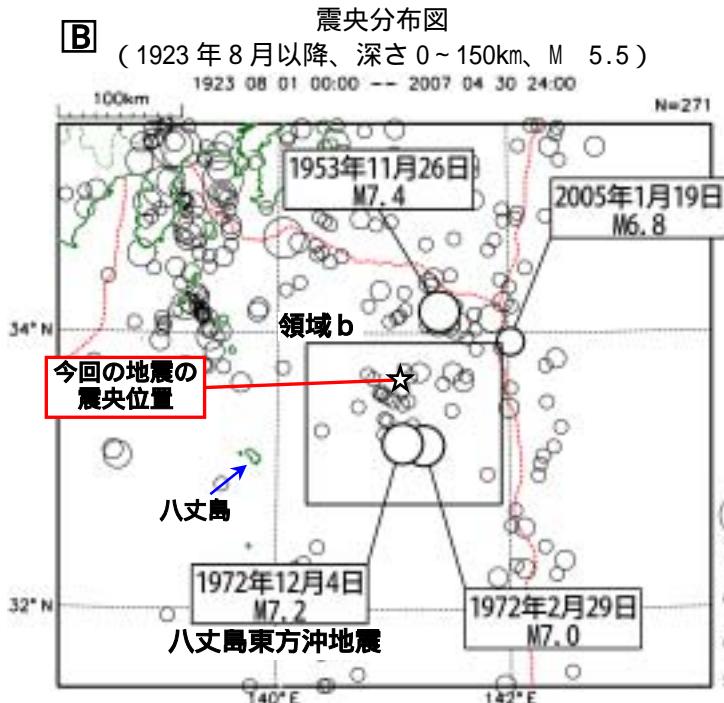
[A]



2007年4月14日03時11分に八丈島東方沖の深さ55kmでM5.3(最大震度3)の地震が発生した。発震機構(CMT解)は、東西方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。今回の地震の震央付近では、最近では2005年7月10日にM5.8(最大震度)、2005年11月16日にM5.5(最大震度)の地震が発生している。(A)



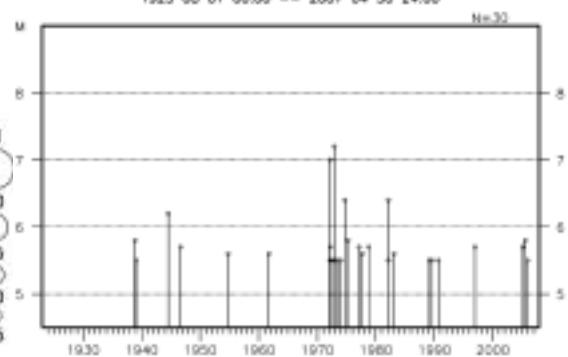
[B]



1923年8月以降の活動を見ると、今回の地震の震央付近では、「1972年12月4日八丈島東方沖地震」(M7.2)が発生している。(B)

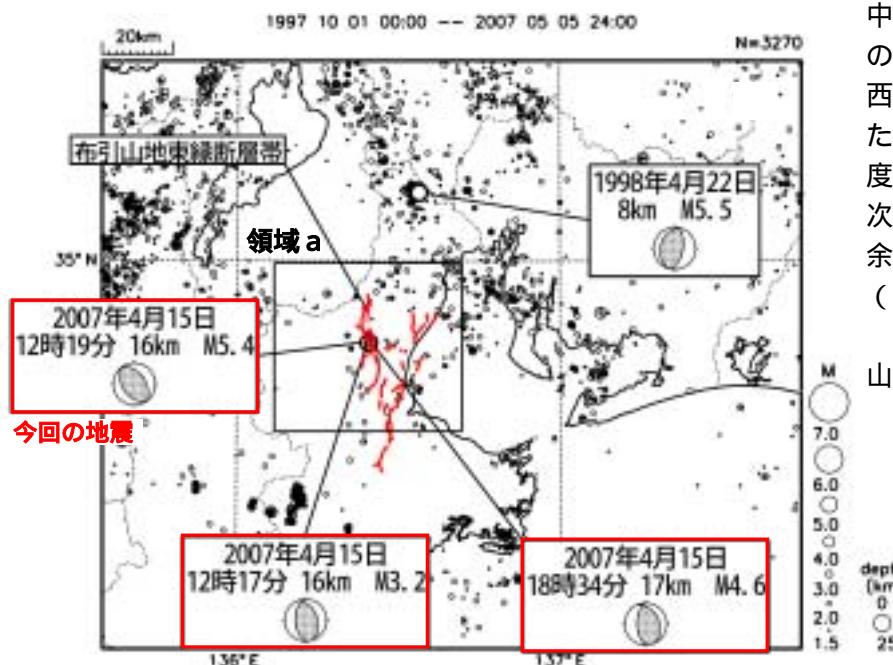
領域b内の地震活動経過図

1923 08 01 00:00 -- 2007 04 30 24:00



## 4月15日 三重県中部の地震

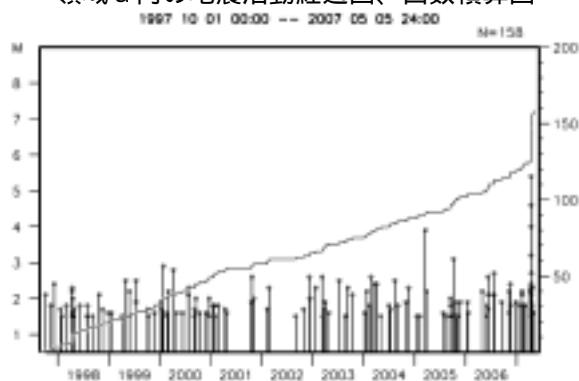
**A** 震央分布図 (1997年10月以降、M 1.5)



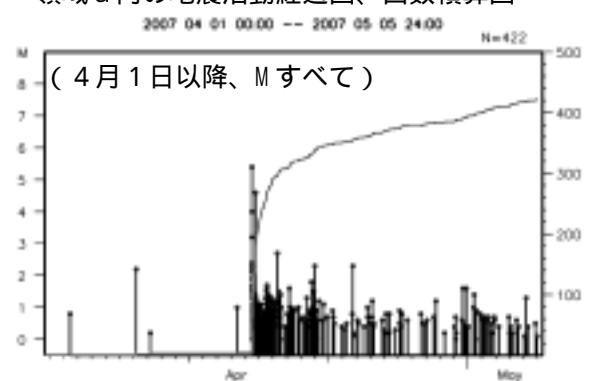
2007年4月15日12時19分に三重県中部の深さ16kmでM5.4(最大震度5強)の地震が発生した。発震機構は北東-南西方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。本震の約2分前には、M3.2(最大震度2)の前震が観測された。余震活動は次第に減衰しており、これまでの最大の余震は15日18時34分に発生したM4.6(最大震度4)の地震である。

なお、今回の地震の震源付近には布引山地東縁断層帯がある。(A)

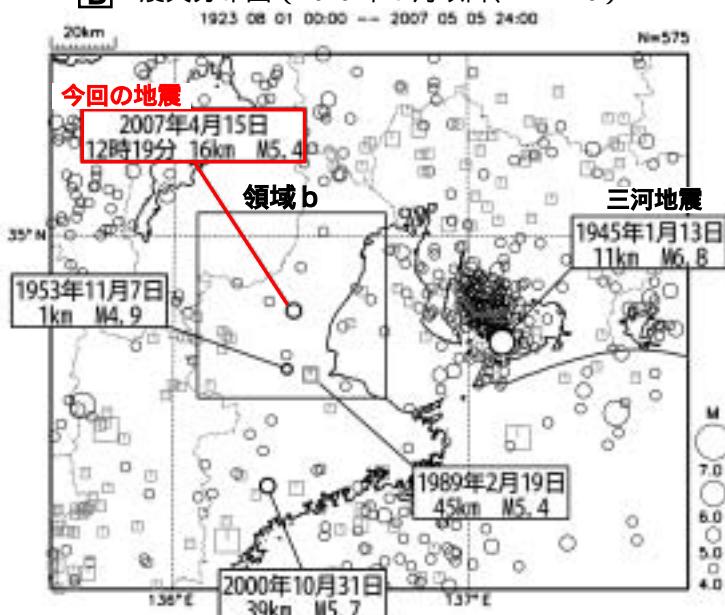
領域a内の地震活動経過図、回数積算図



領域a内の地震活動経過図、回数積算図

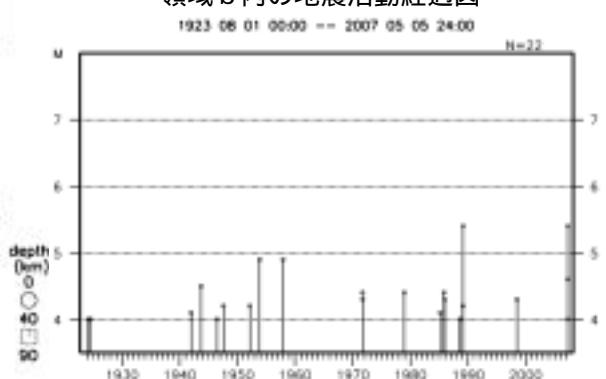


**B** 震央分布図 (1923年8月以降、M 4.0)



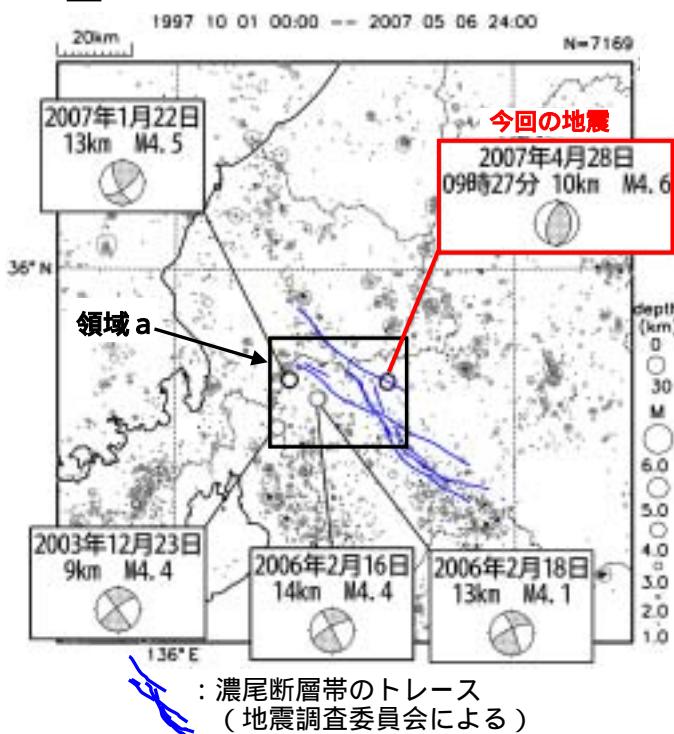
1923年8月以降、今回の地震の震央付近では、1989年2月19日にM5.4(最大震度3)の地震が発生しているが、陸域の浅い地震では今回の地震が最大規模である。(B)

領域b内の地震活動経過図

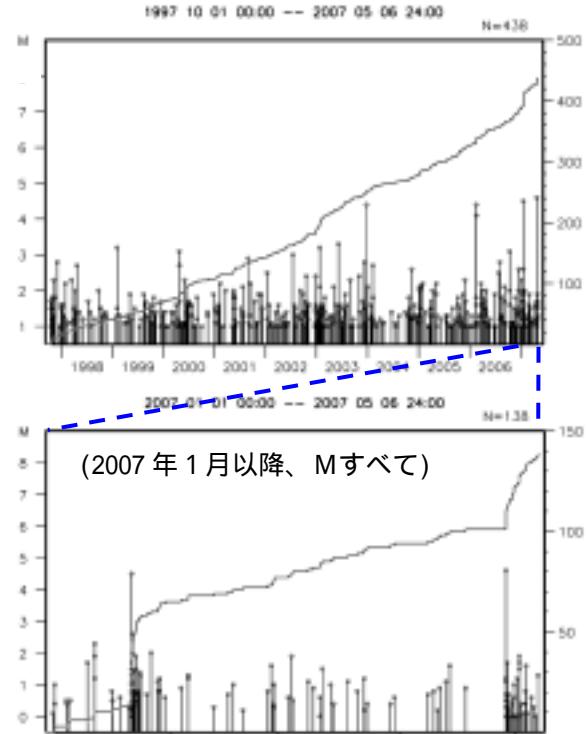


# 4月28日 岐阜県美濃中西部の地震

[A] 震央分布図 (1997年10月以降、M 1.0)



領域a内の地震活動経過図、回数積算図

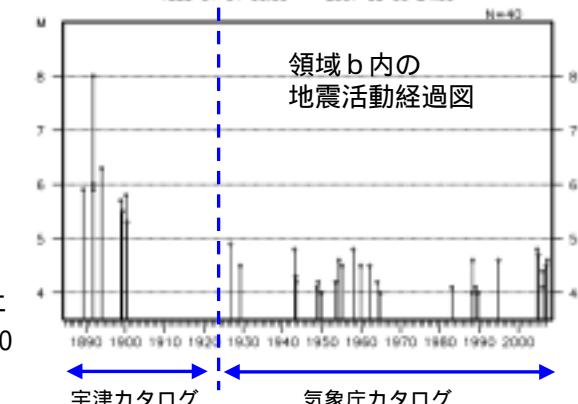
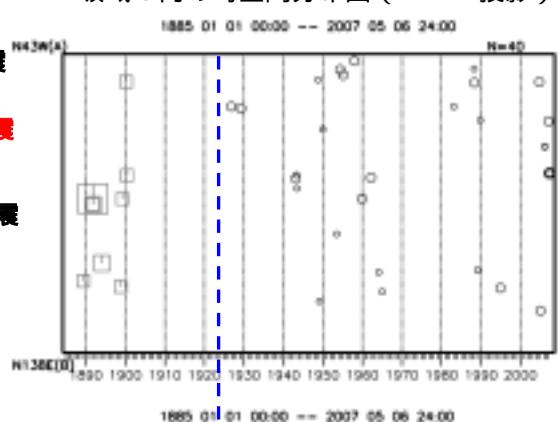


2007年4月28日09時27分に岐阜県美濃中西部の深さ10kmでM4.6(最大震度3)の地震が発生した。発震機構は東西方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。今回の地震の震源付近では、2007年1月22日にM4.5(最大震度3)の地震が発生するなど、ここ数年はM4.0以上の地震が目立っている。なお、今回の地震の震源付近には濃尾断層帯がある。(A)

[B] 震央分布図 (1885年以降、M 4.0)



領域b内の時空間分布図 (A - B投影)



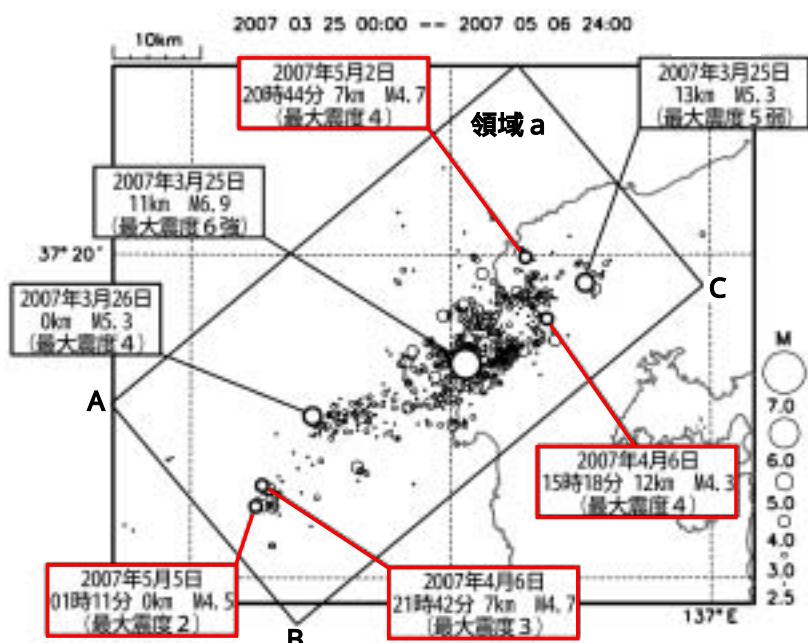
今回の地震の震央付近では、1891年10月28日にM8.0の地震(濃尾地震)が発生するなど、M6.0以上の地震が3回発生しているが、1923年以降では、M5.0を超える規模の地震は発生していない。(B)

## 平成 19 年（2007 年）能登半島地震の余震活動

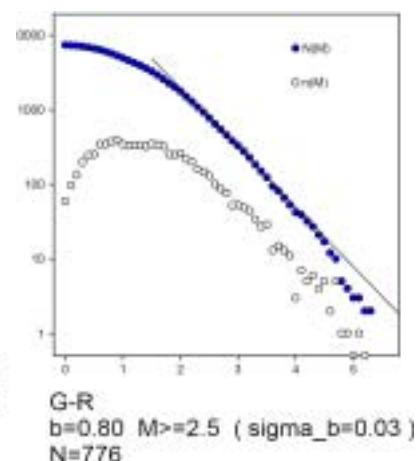
平成 19 年（2007 年）能登半島地震（M6.9）の余震活動は次第に減衰している。

4 月以降、余震域がやや南西側に広がり、6 日 21 時 42 分に 4 月中の最大の余震となる M4.7（最大震度 3）の地震が余震域の南西端付近で発生した。同日 15 時 18 分には余震域北東側の陸域でも M4.3（最大震度 4）の地震が発生している。5 月以降も 2 日に M4.7（最大震度 4）、5 日に M4.5（最大震度 2）の地震がそれぞれ余震域の北東側、南西側で発生しているが、余震活動に特段の変化は見られず、活動は総じて減衰している。

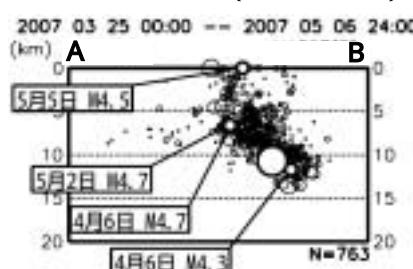
震央分布図（2007 年 3 月 25 日以降、M 2.5）



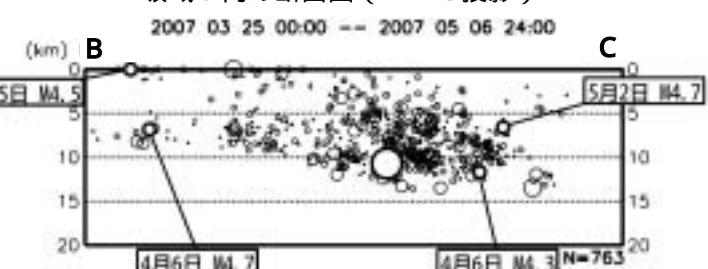
余震の M 度数分布と b 値



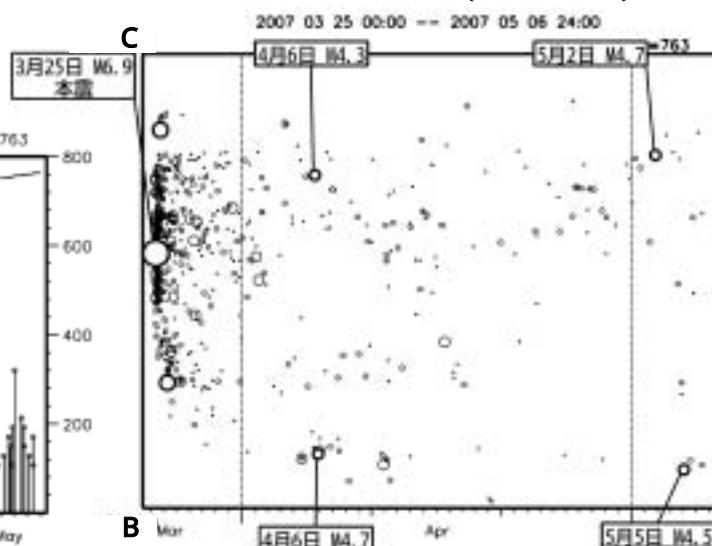
領域 a 内の断面図（A - B 投影）



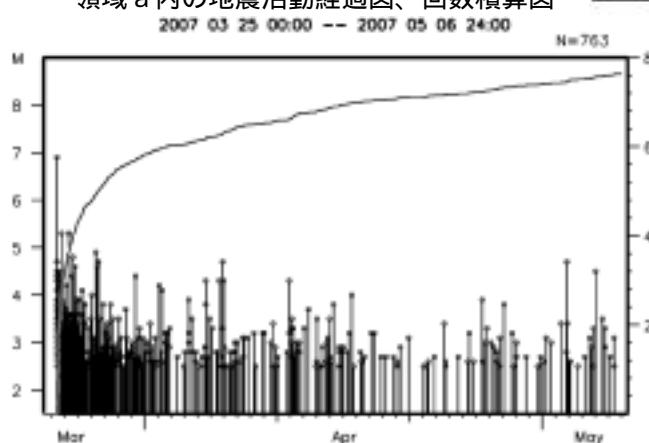
領域 a 内の断面図（B - C 投影）



領域 a 内の時空間分布図（B - C 投影）

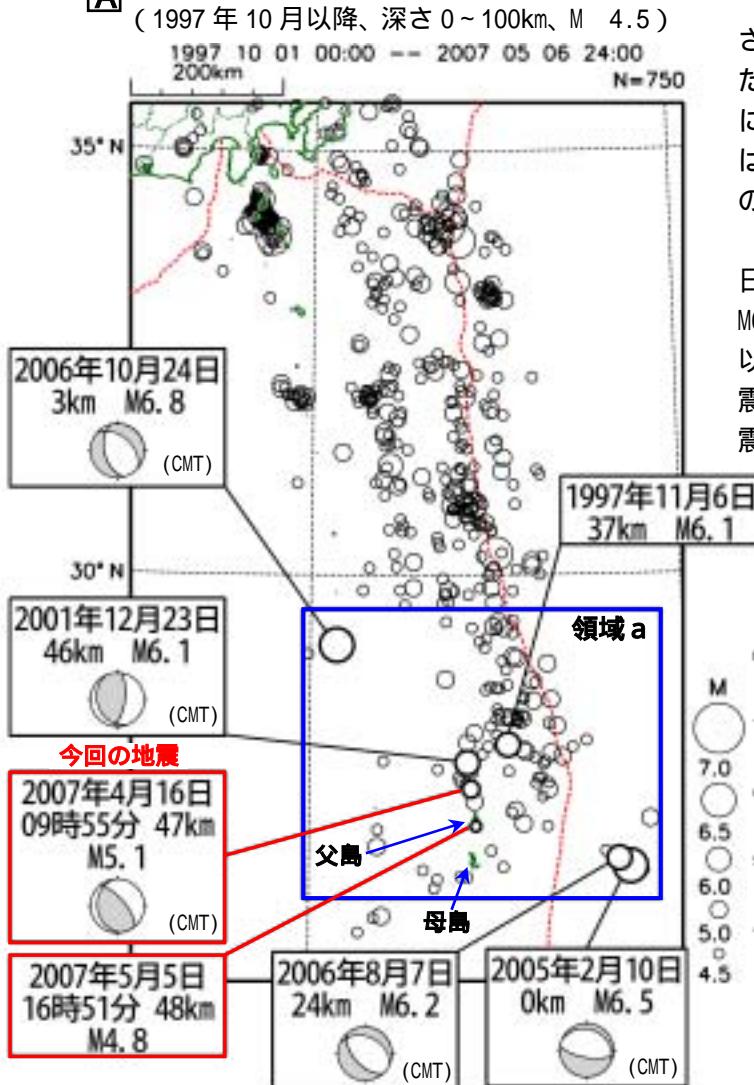


領域 a 内の地震活動経過図、回数積算図



## 4月16日 父島近海の地震

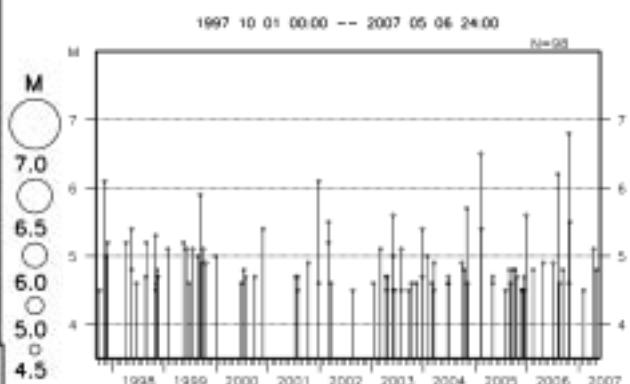
**A 震央分布図** (1997年10月以降、深さ0~100km、M 4.5)



2007年4月16日09時55分に父島近海の深さ47kmでM5.1(最大震度3)の地震が発生した。発震機構(CMT解)は東北東-西南西方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。父島近海では5月5日16時51分にもM4.8(最大震度3)の地震が発生している。

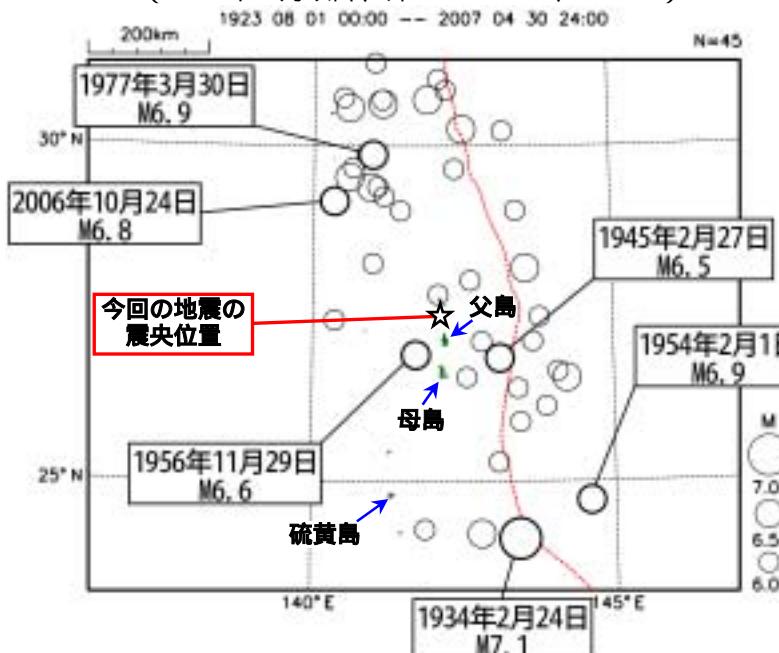
今回の地震の震央付近では、2005年2月10日にM6.5(最大震度2)、2006年10月24日にM6.8(最大震度2)の地震が発生するなど、M6.0以上の地震が時々発生している。今回の地震の震央近傍では2001年12月23日にM6.1(最大震度2)の地震が発生している。(A)

領域a内の地震活動経過図



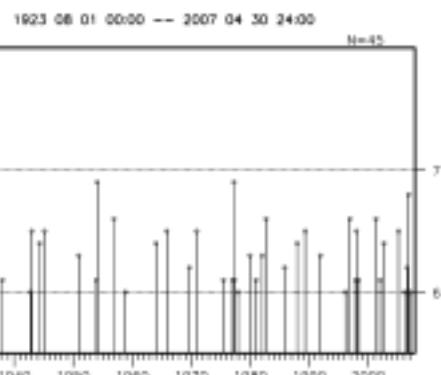
**B 震央分布図**

(1923年8月以降、深さ0~200km、M 6.0)



1923年8月以降の活動を見ると、父島周辺の海域では、M6.0以上の地震が度々発生している。最大は1934年2月24日のM7.1の地震である。(B)

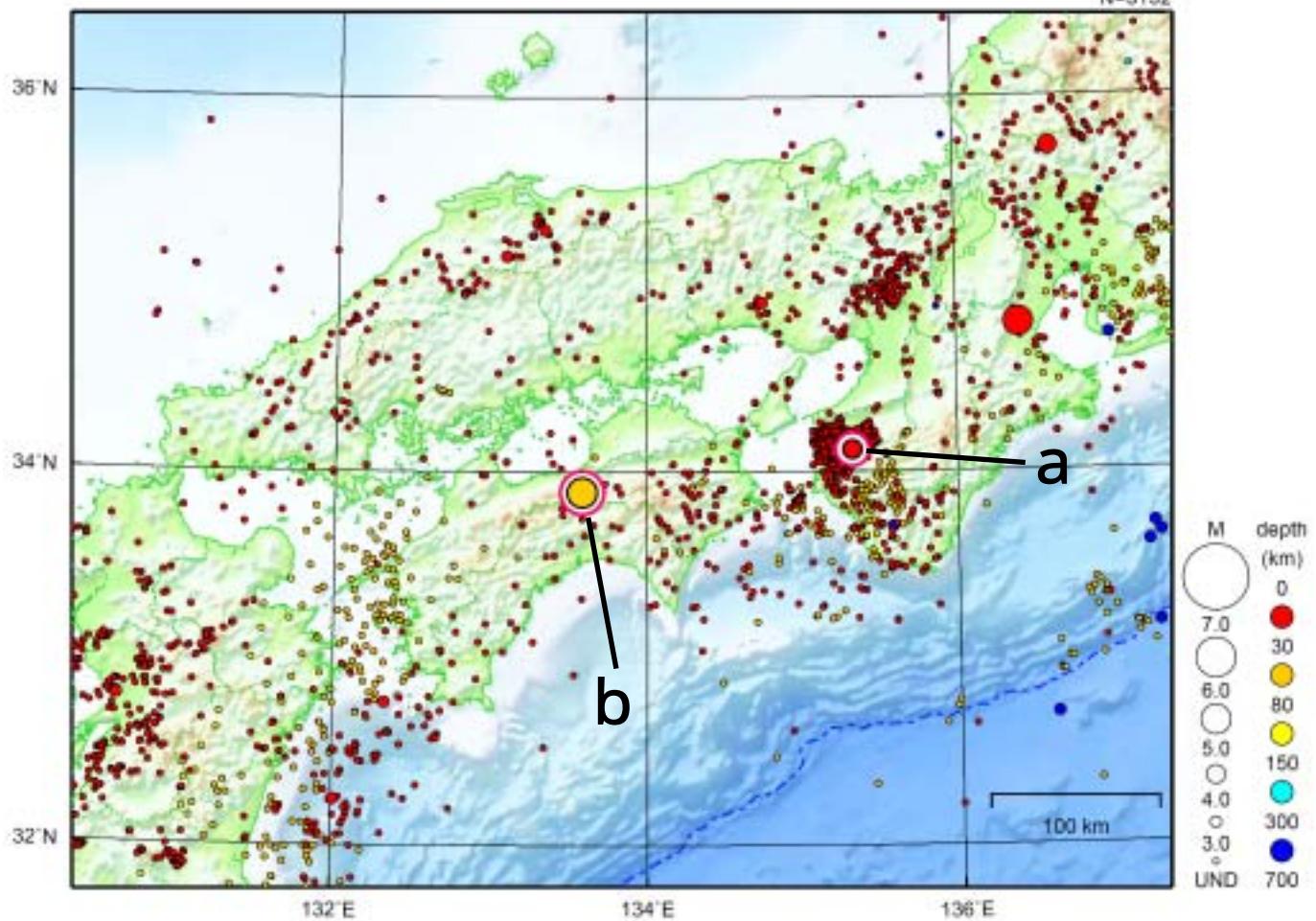
左図内の地震活動経過図



# 近畿・中国・四国地方

2007/04/01 00:00 ~ 2007/04/30 24:00

N=3152



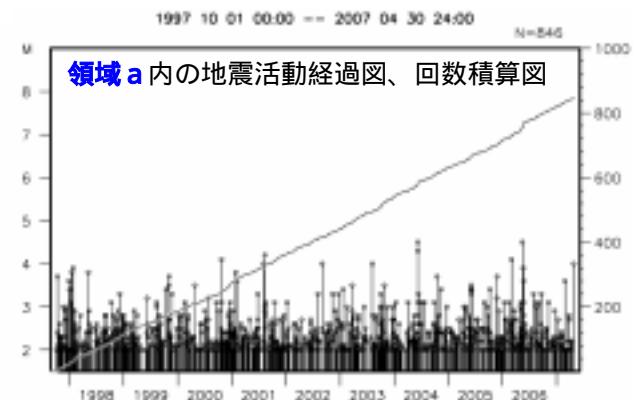
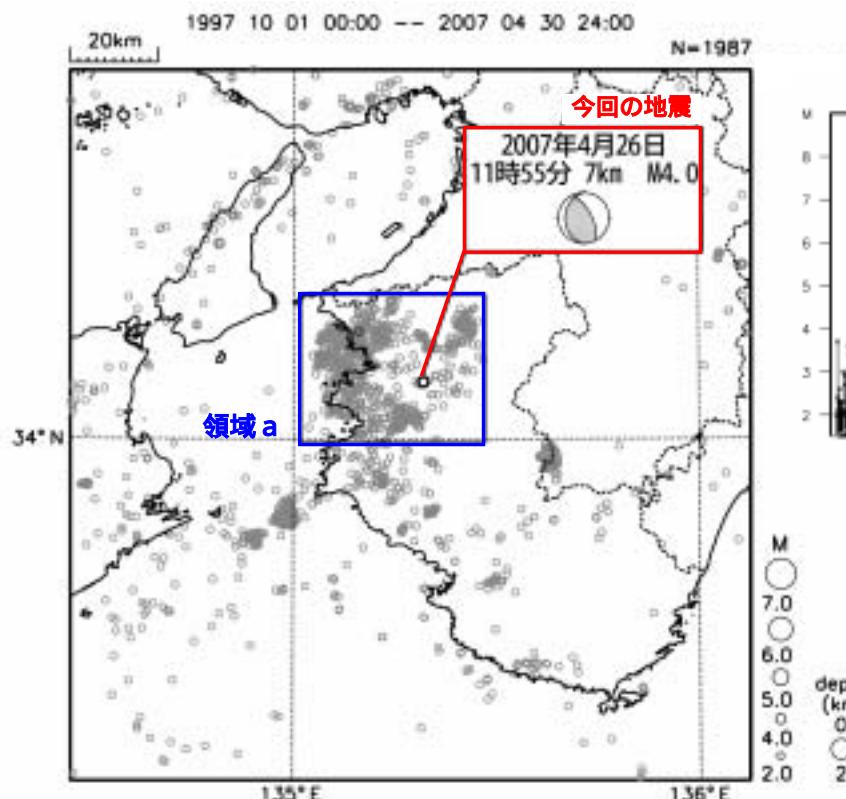
地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

- a ) 4月26日に和歌山県北部で M4.0 (最大震度3) の地震があった。
- b ) 4月26日に愛媛県東予で M5.3 (最大震度4) の地震があった。

[ 上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。 ]

## 4月26日 和歌山県北部の地震

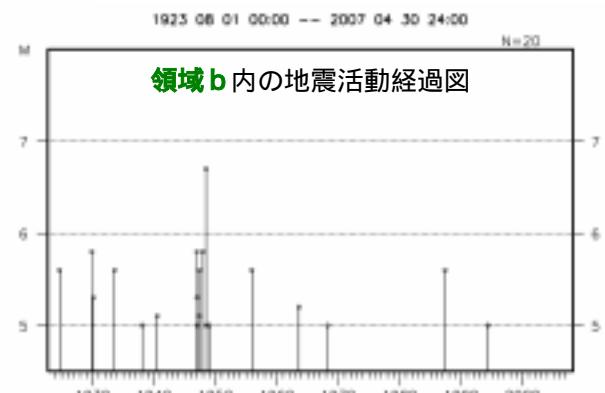
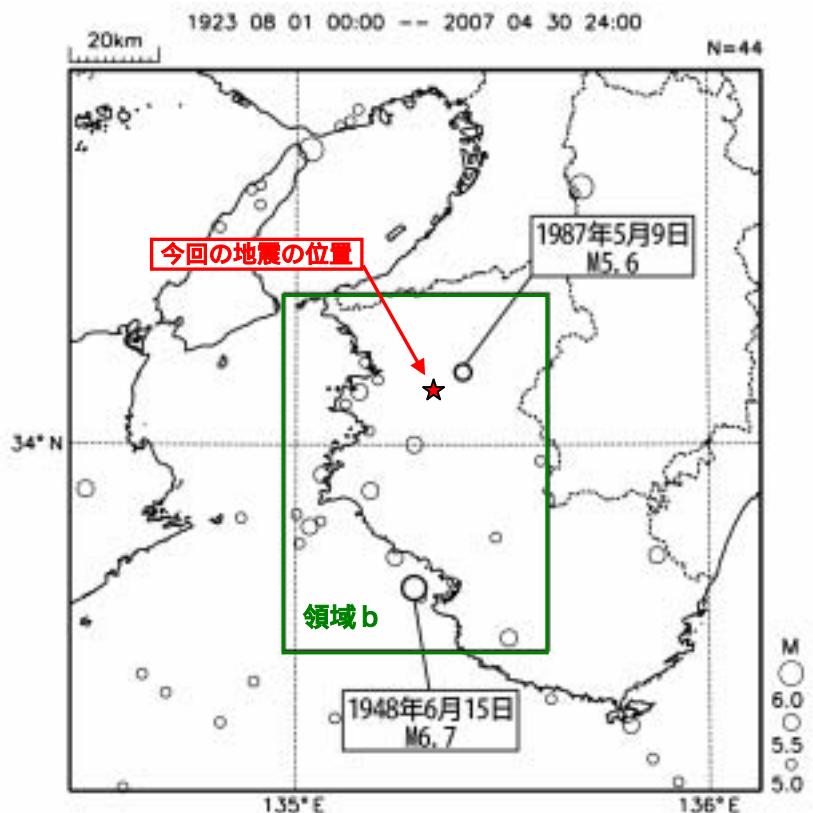
[A] 震央分布図(1997年10月以降、M 2.0)



2007年4月26日11時55分に和歌山県北部の深さ7kmでM4.0(最大震度3)の地震が発生した。発震機構は東北東-西南西方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。

和歌山県北部には、ほぼ定常的な浅い地震活動が見られ、今回の地震はその範囲内のものである。(A)

[B] 震央分布図(1923年8月以降、M 5.0)

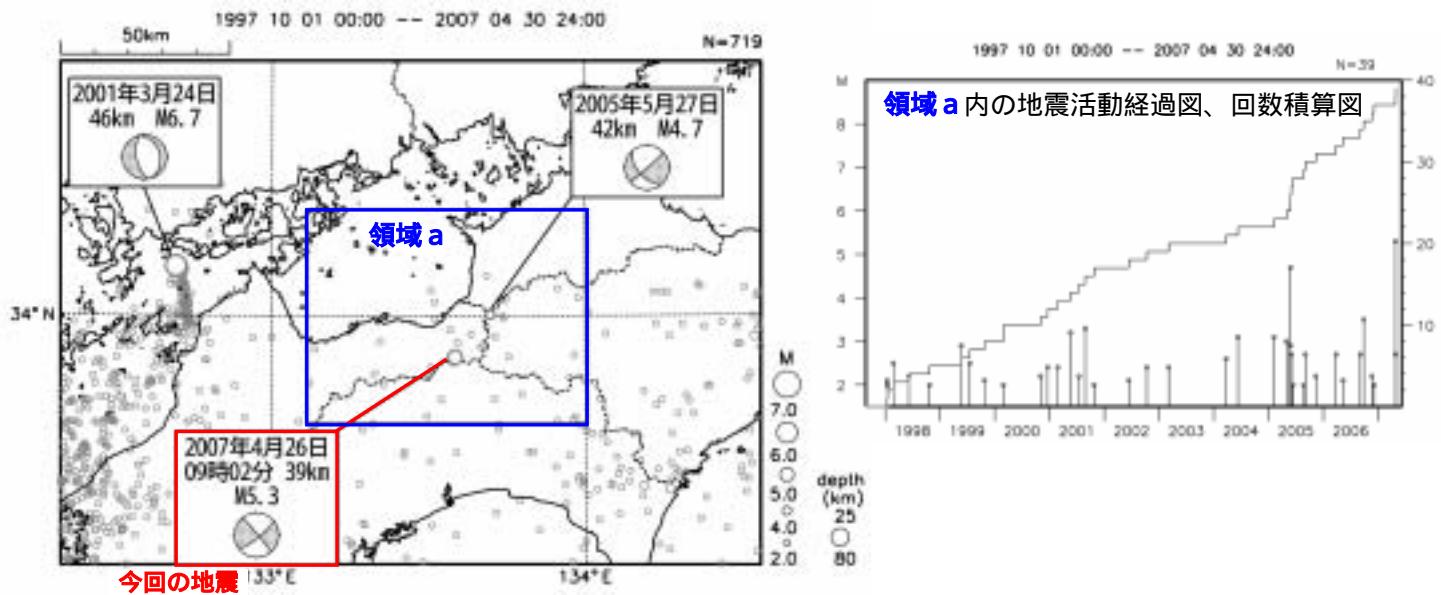


1923年8月以降の活動を見ると、和歌山県付近では1948年6月15日にM6.7の地震が発生している。今回の地震の震央付近では、1987年5月9日にM5.6の地震が発生している。

(B)

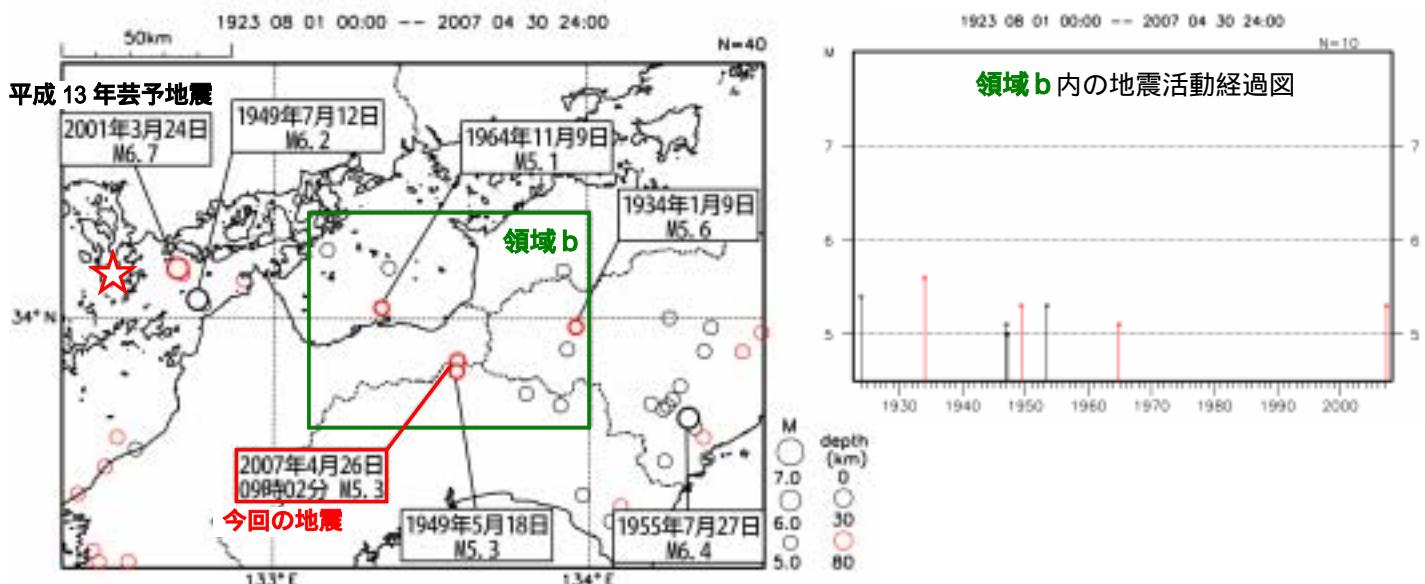
# 4月26日 愛媛県東予の地震

[A] 震央分布図(1997年10月以降、M 2.0、深さ 25km~80km)



2007年4月26日09時02分に愛媛県東予の深さ39kmでM5.3(最大震度4)の地震が発生した。この地震はフィリピン海プレート内部の地震である。発震機構は東西方向に張力軸を持つ横ずれ断層型であった。今回の地震の震源付近では、2005年5月27日にM4.7の地震が発生している。最近10年程度の活動を見ると、ここ数年はやや活発な状況で推移している。(A)

[B] 震央分布図(1923年8月以降、M 5.0)



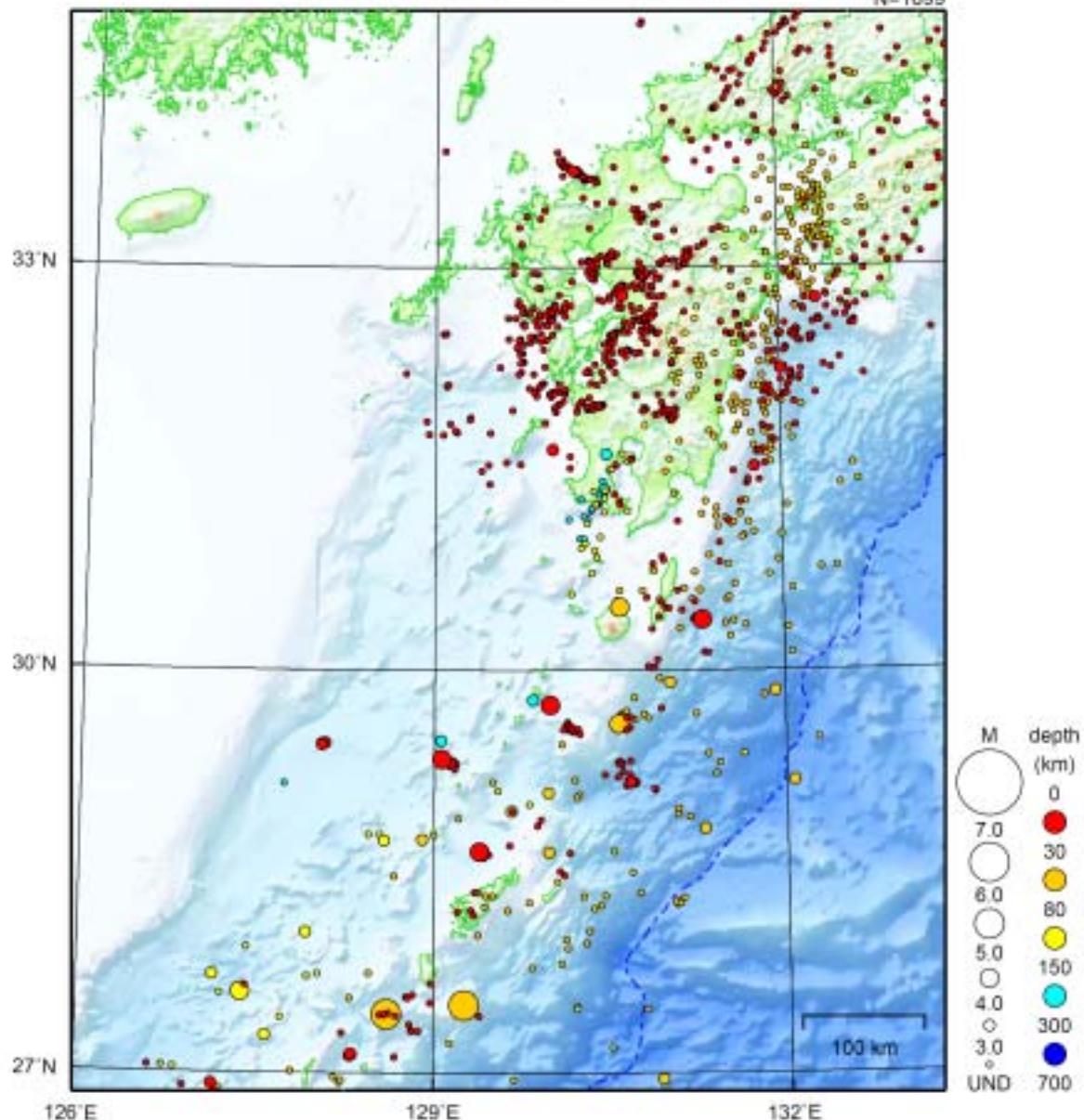
☆は、1905年の芸予地震(M7.2)の震央位置

1923年8月以降の活動を見ると、今回は、1964年以来約40年ぶりのM5.0以上の地震であった。四国から瀬戸内地方にかけて分布するフィリピン海プレートの地震に関しては、1905年(M7.2)および2001年(M6.7)の芸予地震がよく知られているが、今回の地震の震央付近にはM6.0以上の地震は知られていない。(B)

# 九州地方

2007/04/01 00:00 ~ 2007/04/30 24:00

N=1699



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

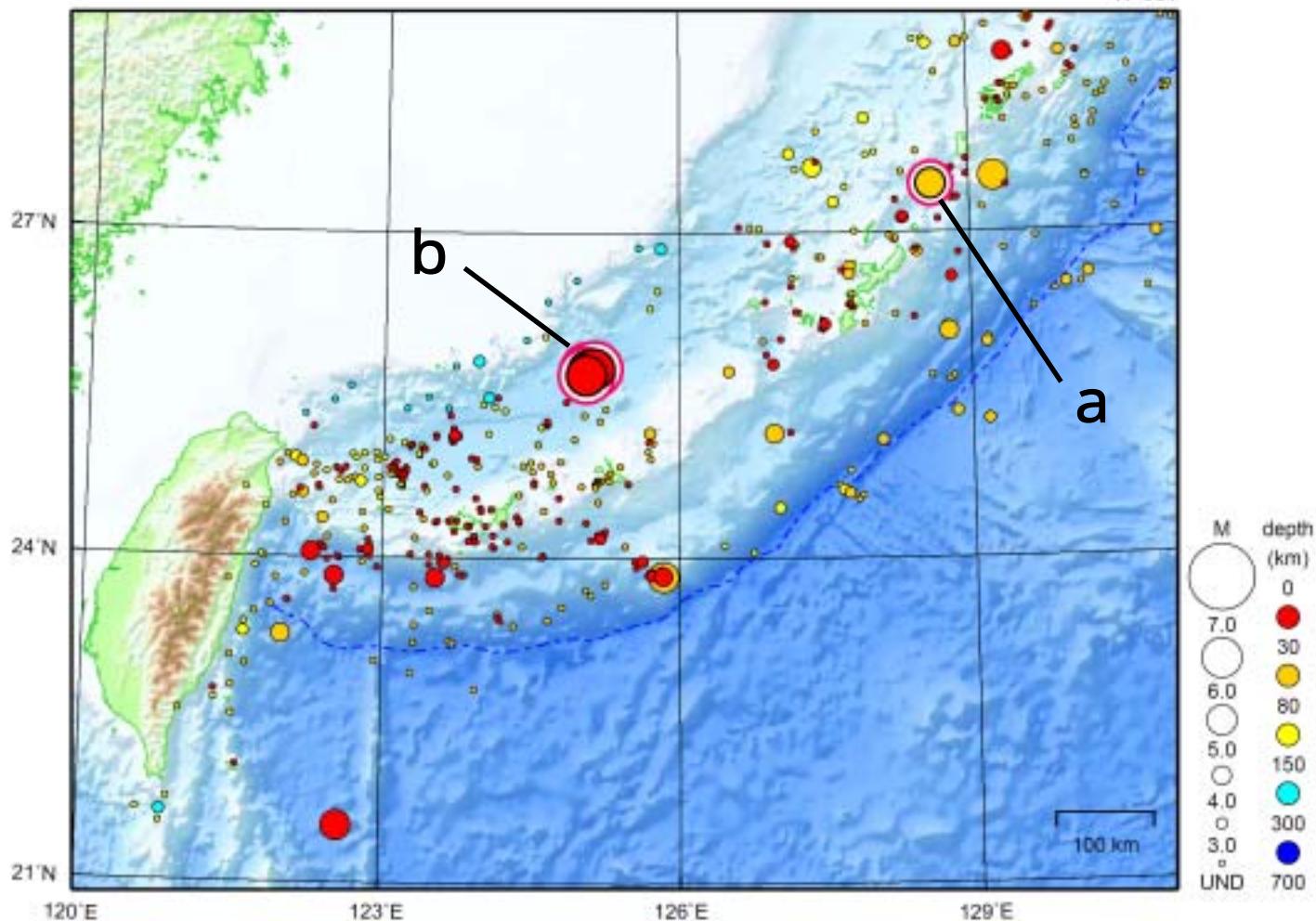
特に目立った活動はなかった。

[ 上述の地震はM6.0 以上、陸域でM4.0 以上かつ最大震度 3 以上、海域でM5.0 以上かつ最大震度 3 以上のいずれかに該当する地震。 ]

## 沖縄地方

2007/04/01 00:00 ~ 2007/04/30 24:00

N=851



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

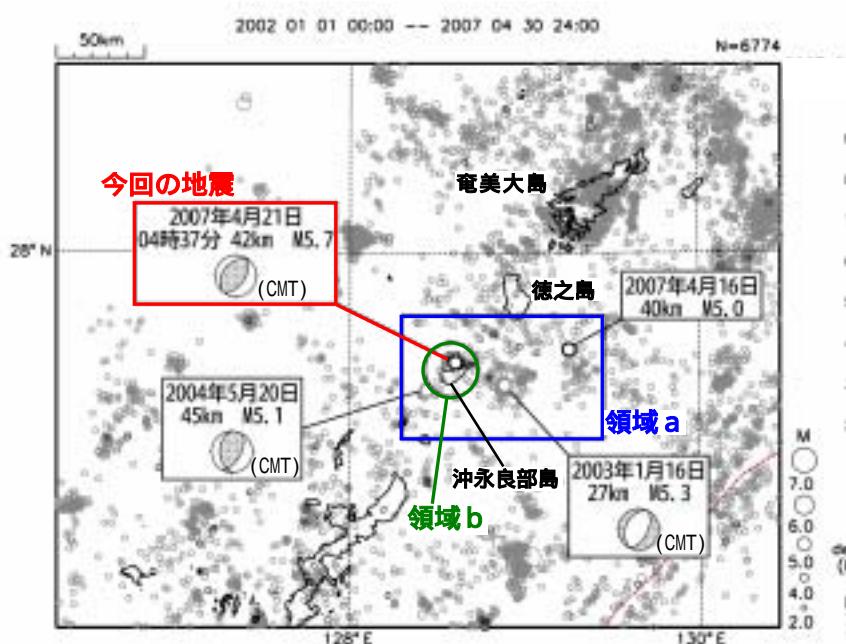
- a ) 4月21日に沖永良部島付近〔沖縄本島近海〕でM5.7(最大震度4)の地震があった。
- b ) 4月20日に宮古島北西沖でM6.7、M6.3、M6.1(共に最大震度3)など、まとまった地震活動があった。

[ 上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。 ]

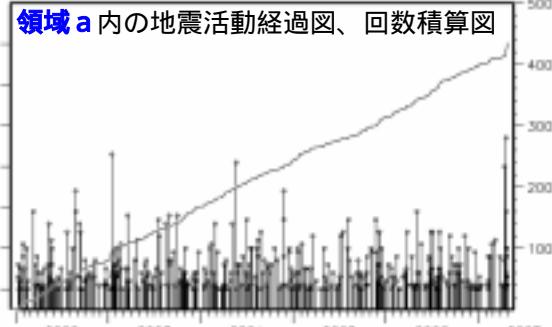
# 4月21日 沖永良部島付近〔沖縄本島近海〕の地震

**A** 震央分布図（2002年1月以降、M 2.0）

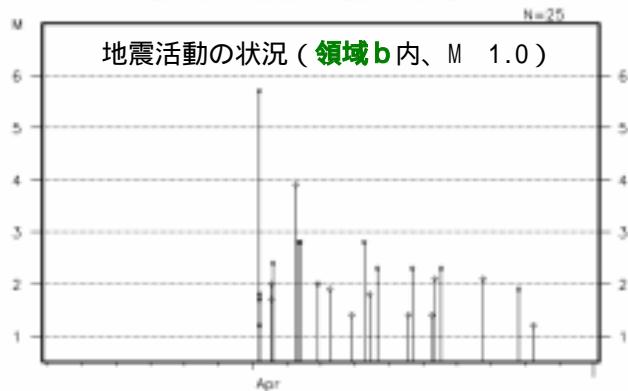
[ ]内は気象庁が情報発表に用いた震央地域名



2002 01 01 00:00 -- 2007 04 30 24:00 N=434



2007 04 15 00:00 -- 2007 04 30 24:00



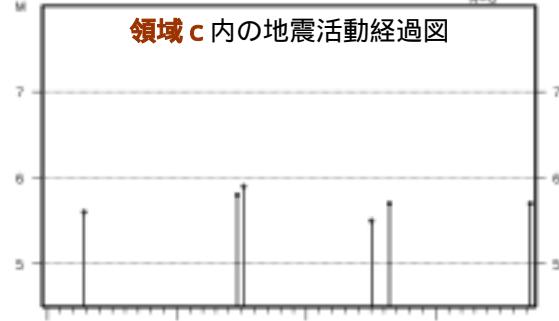
**B** 震央分布図（1970年1月以降、M 5.5）

2007年4月21日04時37分に沖永良部島付近〔沖縄本島近海〕の深さ42kmでM5.7(最大震度4)の地震が発生した。発震機構(CMT解)は西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートの沈み込みに伴う地震である。余震活動は4月末までにほぼ収まった。

今回の地震の震央付近では、2003年1月16日にM5.3、2004年5月20日にM5.1の地震が発生するなど、M5.0を超える地震が時々発生している。( **A** )



1970 01 01 00:00 -- 2007 04 30 24:00 N=5



1970年1月以降の地震活動を見ると、領域c(沖永良部島近傍)ではM5.5以上M6.0未満の地震が時々発生している。( **B** )

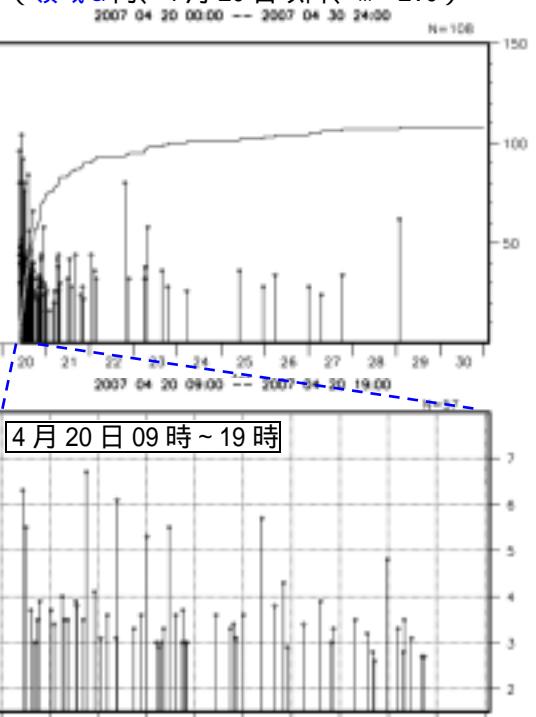
# 4月20日 宮古島北西沖の地震

## A 震央分布図 (2001年1月以降、深さ100km以浅、M 3.0)

2007年2月1日以降の地震を濃いで表示。



今回の地震活動の状況  
(領域a内、4月20日以降、M 2.0)

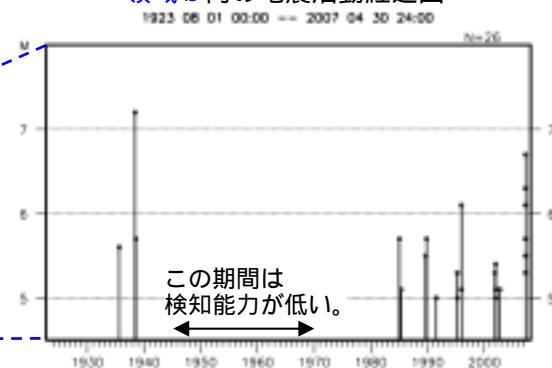


2007年4月20日10時45分に宮古島北西沖でM6.7(最大震度3)の地震が発生した。また同日09時26分、11時23分にもM6.3、M6.1の地震が発生するなど、活発な地震活動が見られたが、4月末までにはほぼ収まった。最大の地震(M6.7)の発震機構(CMT解)は北北西-南南東方向に張力軸を持つ正断層型で、この付近の応力場と調和的である。今回の地震により、気象庁は10時51分に宮古島・八重山地方に津波注意報を発表したが、この地震に伴う津波は観測されなかった。今回の地震の震央周辺においては、2001年8月18日にM6.4、2003年12月24日にM6.0の地震が発生するなど、M6.0以上の地震が時々発生している。(A)

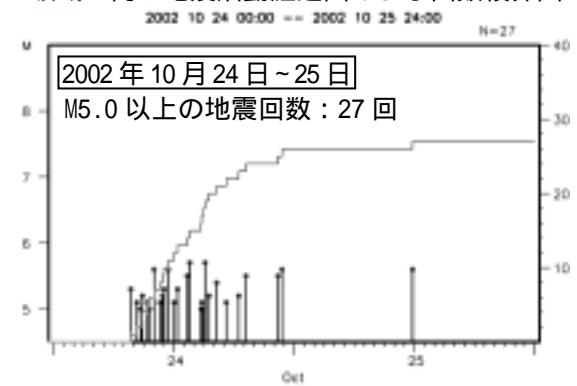
## B 震央分布図 (1923年8月以降、深さ100km以浅、M 5.0)



領域b内の地震活動経過図



領域c内の地震活動経過図および回数積算図



気象庁作成

1923年以降の地震の活動状況をみると、今回の地震の震央付近では、1938年6月10日にM7.2の地震が発生し、宮古島で1.5m程度の津波を観測している。また、領域cでは2002年10月に活発な地震活動があった。(B)

# 東海地震の想定震源域及びその周辺の地震活動

## [概況]

特に目立った活動はなかった。

## [地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会検討結果]

4月23日に気象庁において第251回地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会(定例会)を開催し、気象庁は「最近の東海地域とその周辺の地震・地殻活動」として次のコメントを発表した(図2と図3)。

現在のところ、東海地震に直ちに結びつくような変化は観測されていません。

全般的には顕著な地震活動はありません。浜名湖東方から静岡県中部の直下では通常より活動レベルの低い状態になっていますが、その他の地域では概ね平常レベルです。

東海地域及びその周辺の地殻変動には注目すべき特別な変化は観測されていません。

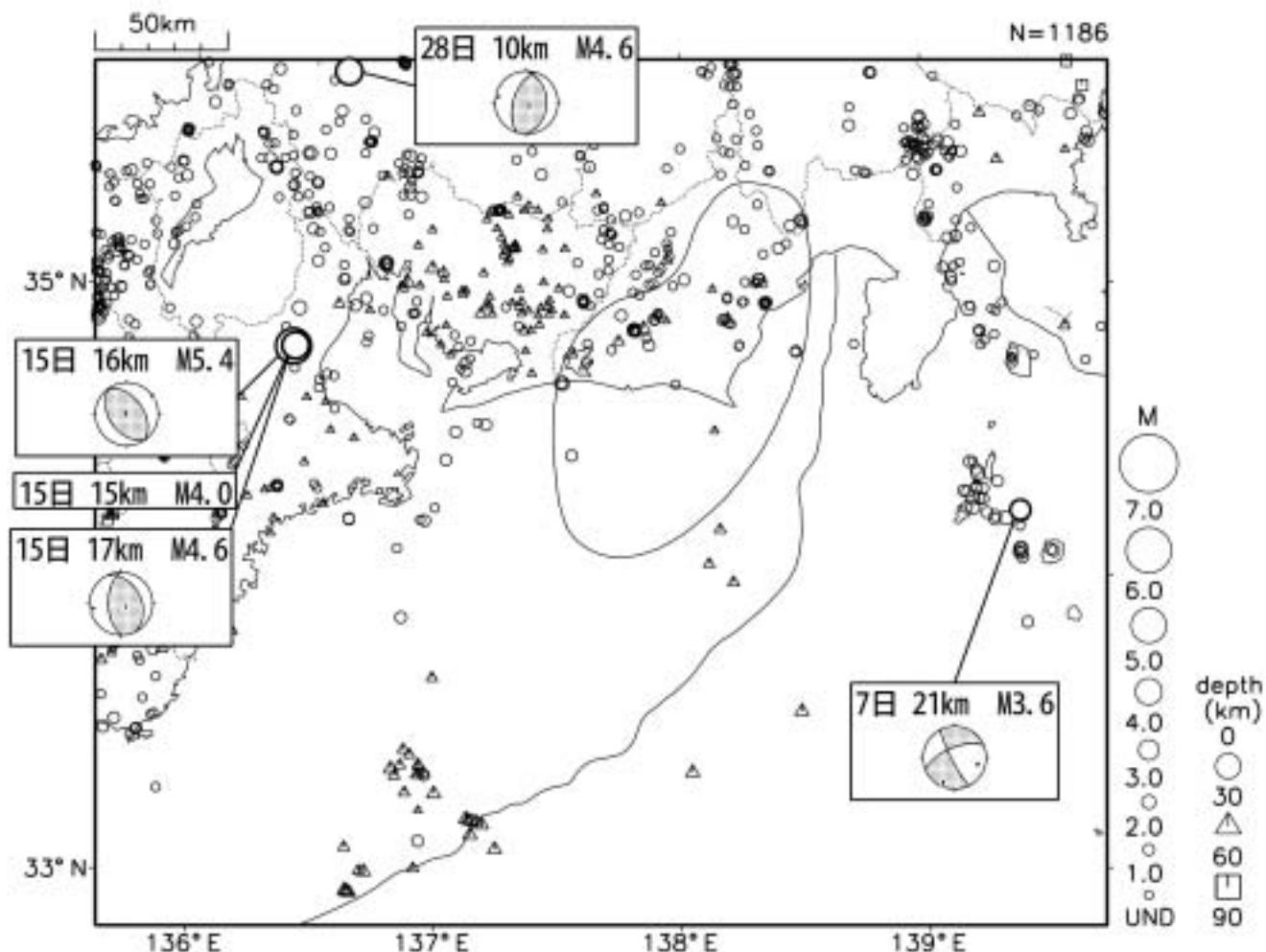


図1 震央分布図(2007年4月1日～30日：深さ90km以浅、Mすべて。M3.0以上の地震(三重県中部と東海道沖はM4.0以上)に「日、深さ、M」を付けた。すぐ下の図はP波初動による発震機構(下半球投影)。図中のナス型の領域は東海地震の想定震源域。)

7日10時48分、三宅島近海の深さ21kmでM3.6の地震があり、最大震度1を観測した。発震機構は西北西-東南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。

15日12時19分、三重県中部の深さ16kmでM5.4の地震があり、最大震度5強を観測した。

発震機構は北東-南西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、陸域の地殻内で発生した地震である。余震活動は減衰している(4月30日現在、M4.0以上の余震は2回)。

28日09時27分、岐阜県美濃中西部でM4.6の地震があり、最大震度3を観測した。発震

機構は東西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、  
陸域の地殻内で発生した地震である。

注：本文中の番号は、図1中の数字に対応する。

[東海地域の地震活動の観で使われる用語]

・「想定震源域」(図1)と「固着域」(図2)

東海地震発生時には、「固着域」(プレート間が強く「くっついている」と考えられている領域)あるいはその周辺の一部からゆっくりしたずれ(前兆すべり)が始まり、最終的には「想定震源域」全体が破壊すると考えられている。

・「クラスタ除去」(図2、3)

地震は時間空間的に群(クラスタ：cluster)をなして起きることが多くある。「本震とその後に起きた余震」、「群発地震」などが典型的な群(クラスタ)で、余震活動等の影響を取り除いて地震活動全体の推移を見ることを「クラスタ除去」と言う。震央距離が3km以内、発生時間差が7日以内の地震をクラスタと見なし、最大地震で代表させている。

大規模な地震から国民の生命・財産を保護することを目的として、昭和53年(1978年)12月に施行された「大規模地震対策特別措置法」では、大規模な地震の発生のおそれがあり、その地震によって大きな被害が予想されるような地域をあらかじめ「地震防災対策強化地域」(以下、「強化地域」という。)として指定し、地震予知のための観測施設の整備を強化し、あらかじめ地震防災に関する計画をたてる等、各種の措置を講じることとしている。強化地域は平成14年(2002年)4月に見直しが行われ、現在、静岡県全域と東京都、神奈川・山梨・長野・岐阜・愛知及び三重の各県にまたがる173市町村(平成19年4月現在)が強化地域に指定されている。強化地域では、マグニチュード8クラスと想定されている大地震(東海地震)が起こった場合、震度6弱以上(一部地域では震度5強程度)になり、沿岸では大津波の来襲が予想されている。気象庁では東海地震の直前の前兆現象を捕らえるため、地震、地殻変動等の観測データを常時監視している。

東海地域の地震活動指數  
(クラスタを除いた地震回数による)

2007年4月18日 現在

	① 固着域		② 愛知県		③ 浜名湖			④ 駿河湾
	地殻内	フィリピン海プレート	地殻内	フィリピン海プレート	フィリピン海プレート内			全域
					西側	全域	東側	
短期活動指數	6	4	7	4	2	1	2	2
短期地震回数 (平均)	9 (6.24)	5 (5.82)	19 (13.08)	12 (13.98)	0 (2.38)	1 (5.83)	1 (3.45)	2 (6.06)
中期活動指數	6	4	6	6	1	0	1	3
中期地震回数 (平均)	24 (18.73)	18 (17.45)	48 (39.23)	50 (41.94)	1 (4.76)	3 (11.66)	2 (6.90)	9 (12.12)

\* Mしきい値 :

$M \geq 1.1$  : 固着域、愛知県、浜名湖、 $M \geq 1.4$  : 駿河湾

\* クラスタ除去 :

震央距離が $\Delta r$ 以内、発生時間差が $\Delta t$ 以内の地震をグループ化し、最大地震で代表させる。

$\Delta r=3\text{km}$ 、 $\Delta t=7\text{日}$  : 固着域、愛知県、浜名湖

$\Delta r=10\text{km}$ 、 $\Delta t=10\text{日}$  : 駿河湾

\* 対象期間 :

短期: 30日間 (固着域、愛知県)、90日間 (浜名湖、駿河湾)

中期: 90日間 (固着域、愛知県)、180日間 (浜名湖、駿河湾)

\* 基準期間 :

1997年-2001年 (5年間) : 固着域、愛知県、1998年-2000年 (3年間) : 浜名湖

1991年-2000年 (10年間) : 駿河湾

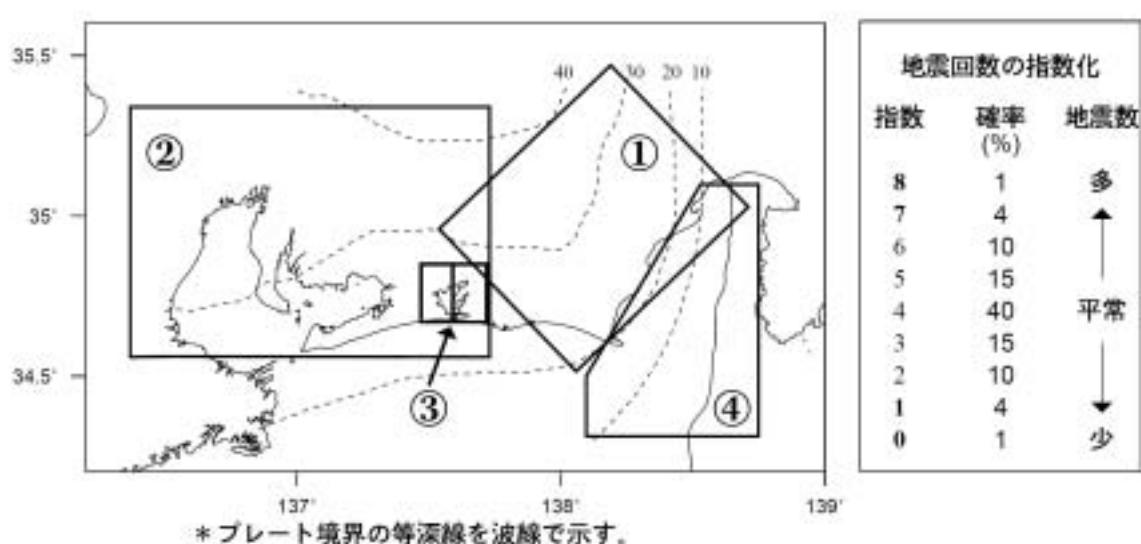


図2 東海地域の地震活動指數

浜名湖は、活動指數の低い状態が継続している。愛知県の地殻内は、三重県中部の地震(4月15日 M5.4)の影響もありやや短期指數がやや高かった。それ以外の地域は、ほぼ平常の活動であった。

## 浜名湖（フィリピン海プレート内）

1995/1/1~2007/4/18 M ≥ 1.1 \*クラスタ除去したデータ

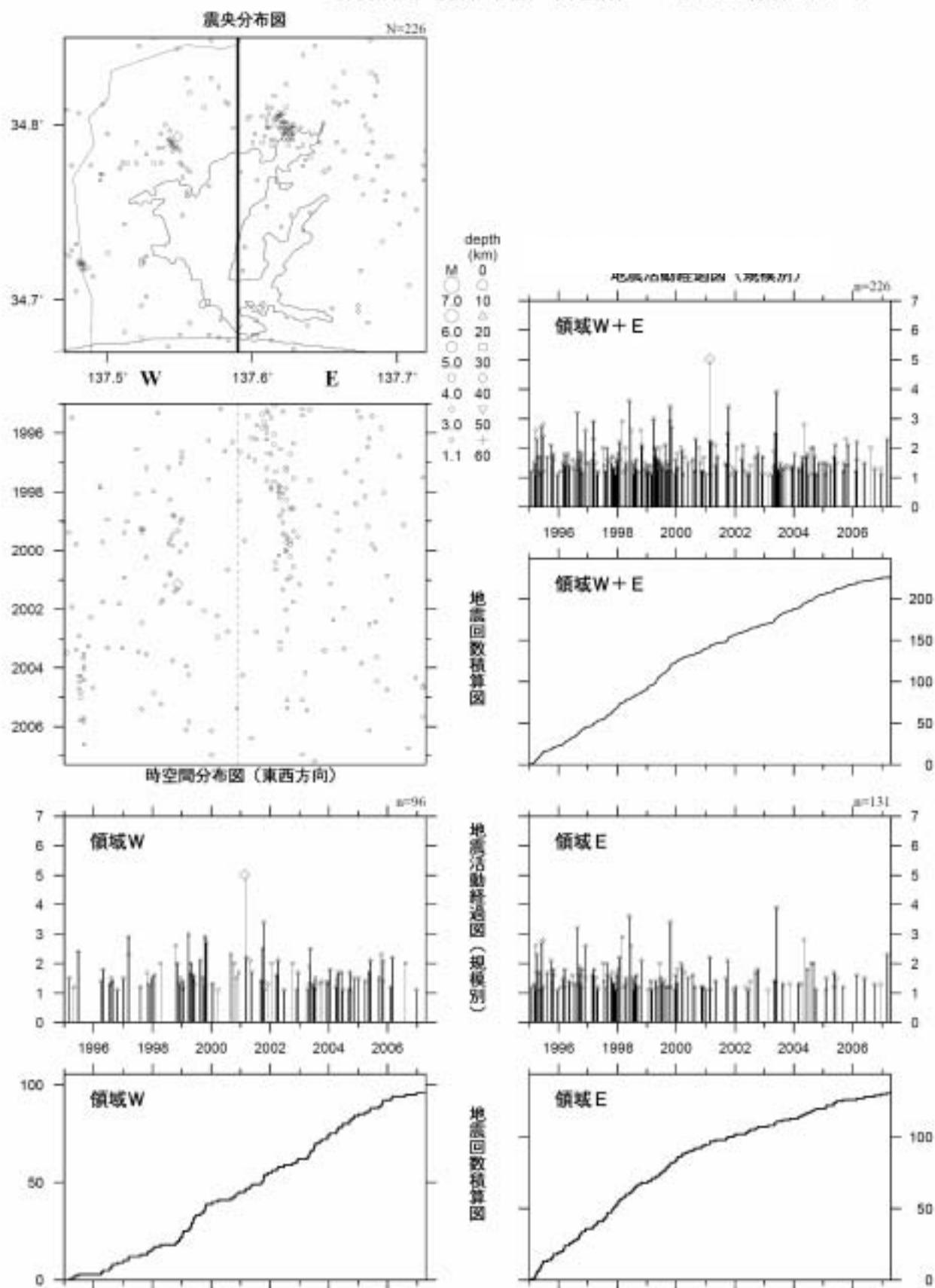


図3 浜名湖付近のフィリピン海プレート内の地震活動

領域Eでは2000年終わりごろからの活動の低下が継続している。領域Wもここ数ヶ月はやや静かになっている。

別紙 1 - 参考 1

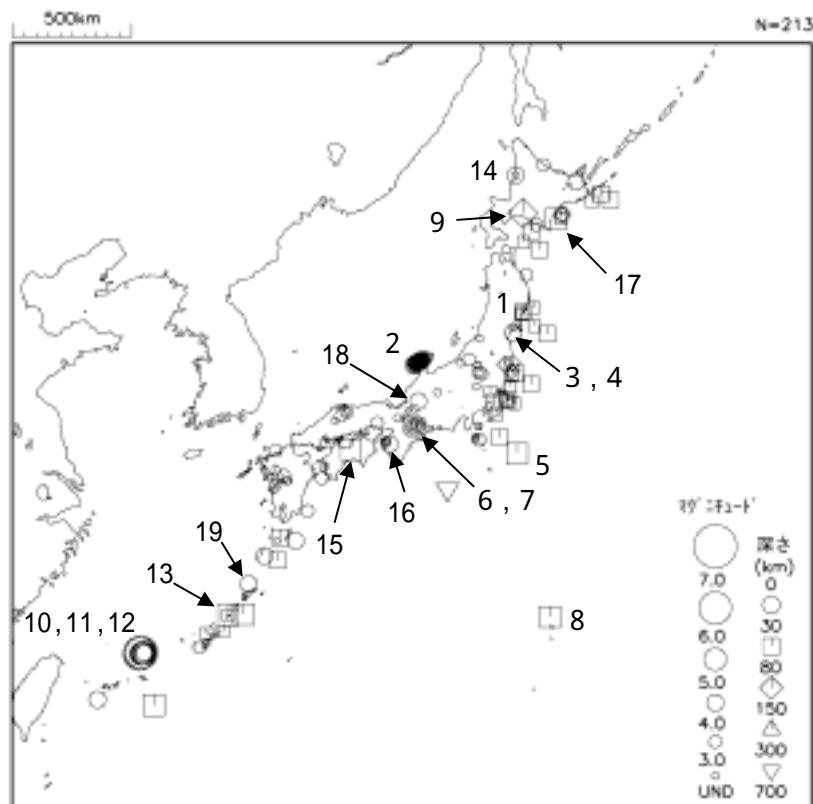


図 1 2007 年 4 月に震度 1 以上を観測した地震  
(図中の番号は、別紙 1 の表の No に対応する地震)

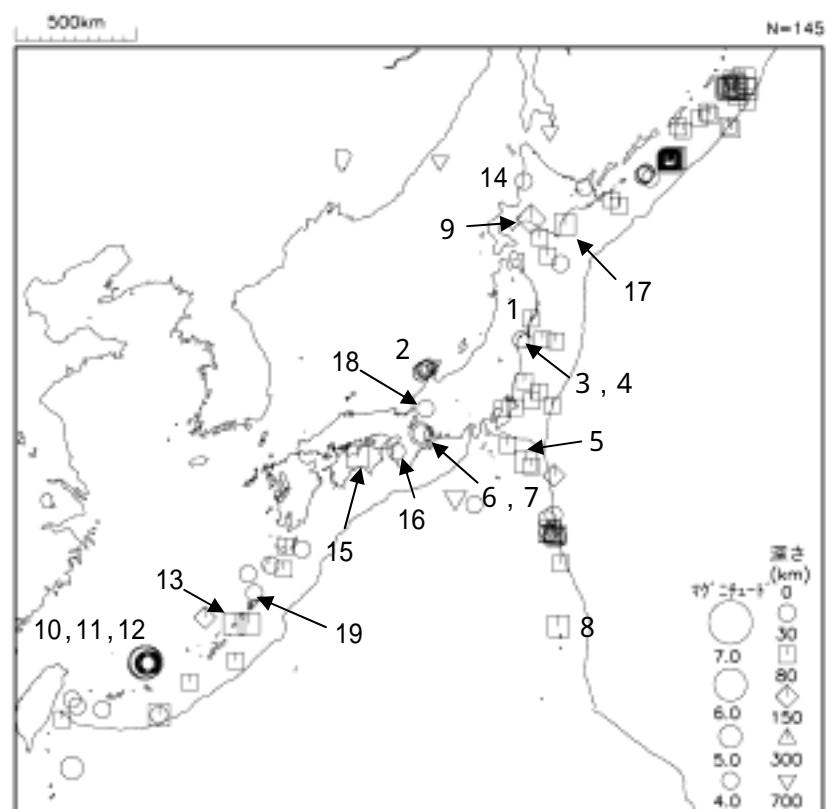


図 2 2007 年 4 月に発生した M4.0 以上の地震  
(図中の番号は、別紙 1 の表の No に対応する地震)

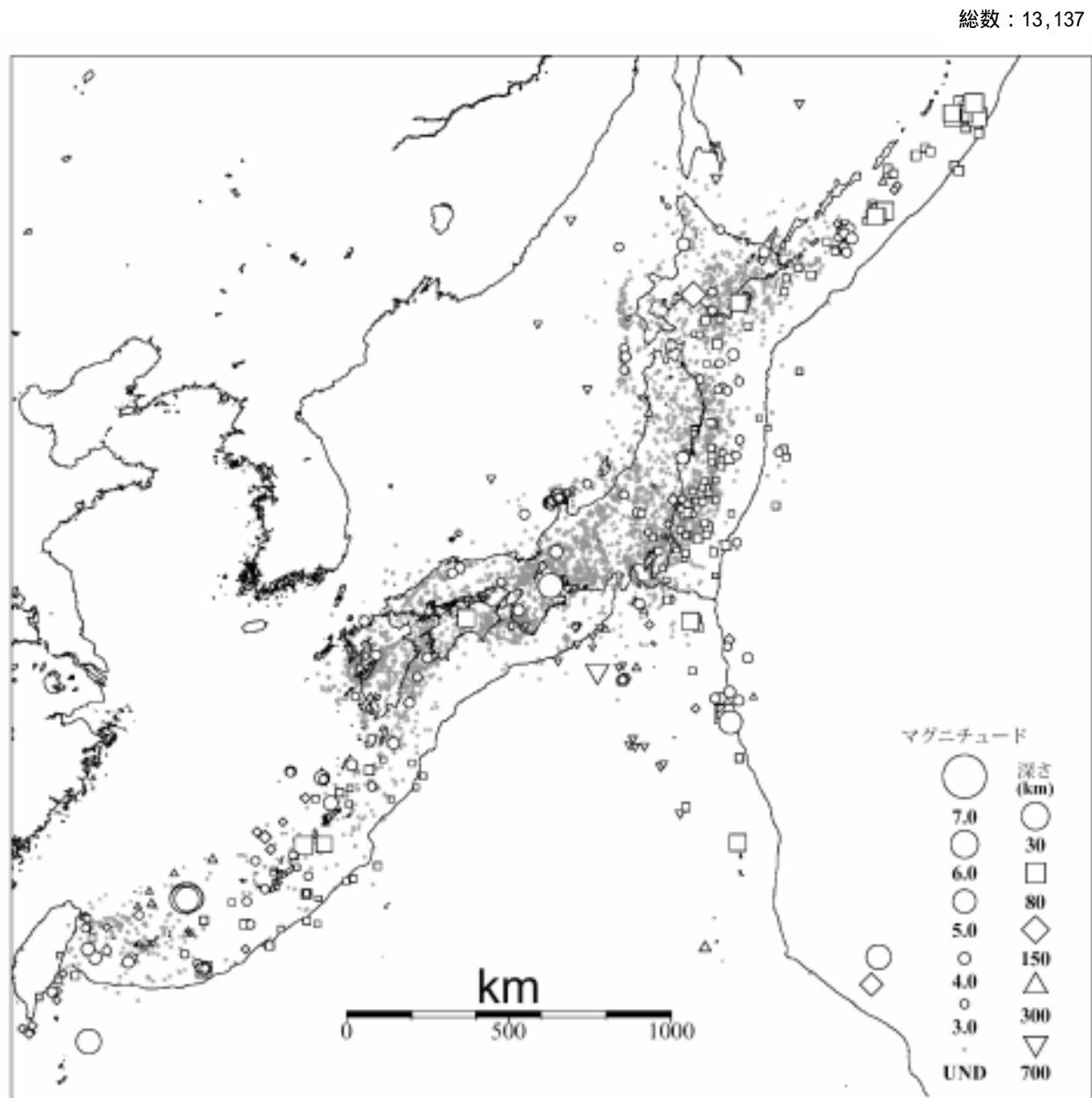


図3 気象庁が震源を決定した日本付近の2007年4月の地震の震央分布  
(M3.0以上の地震については白抜きで示す)

表1. 過去1年間に震度1以上を観測した地震の最大震度別の月別回数  
<平成18年(2006年)4月～平成19年(2007年)4月>

	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7	計	記事
2007年4月	135	47	23	7		1				213	15日 三重県中部(震度5強) 平成19年(2007年)能登半島地震の余震 (震度4:1回、震度3:7回、 震度2:20回、震度1:63回)
2007年3月	280	105	35	8	3			1		432	平成19年(2007年)能登半島地震 (震度6強:1回、震度5弱:3回、 震度4:5回、震度3:26回、 震度2:69回、震度1:210回)
2007年2月	62	21	3	1						87	
2007年1月	63	28	10	1						102	新島・神津島近海 (震度2:3回、震度1:11回)
2006年12月	82	46	14	3						145	新島・神津島近海(震度4:1回、 震度3:6回、震度2:12回、 震度1:14回)
2006年11月	98	22	11	4						135	新島・神津島近海 (震度3:2回、震度2:2回、 震度1:8回)
2006年10月	73	23	5	1						102	
2006年9月	64	21	11	1						97	
2006年8月	63	22	8	1						94	
2006年7月	82	24	12	3						121	新島・神津島近海(震度4:2回、 震度3:2回、震度2:5回、 震度1:15回)
2006年6月	59	34	6	2	1					102	12日 大分県西部(震度5弱)
2006年5月	81	20	6	2						109	
2006年4月	89	47	22	3	1					162	30日 伊豆半島東方沖(震度5弱:1回、 震度4:1回、震度3:4回、 震度2:6回、震度1:33回)
2007年計	540	201	71	17	3	1		1		834	(平成19年1月～平成19年4月)
過去1年計	1142	413	144	34	4	1		1		1739	(平成18年5月～平成19年4月)

注) 「記事」欄の「\*」は関連の地震で震度1以上を観測した地震の回数。「記事」欄には主に震度5弱以上を観測した地震、または震度1以上を10回以上観測した地震活動について記載した。

地方公共団体等の震度計による震度の発表開始年月日。

平成9(1997)年11月10日 秋田県、埼玉県、横浜市(神奈川県)、新潟県、愛知県、大阪府、奈良県、和歌山県、岡山県、山口県  
平成10(1998)年6月15日 群馬県、福井県、静岡県、三重県、島根県、愛媛県

10月15日 青森県、山形県、茨城県、石川県、京都府、兵庫県、鳥取県、広島県、徳島県、熊本県、宮崎県、鹿児島県

平成11(1999)年7月21日 東京都、長野県

平成12(2000)年1月12日 栃木県、千葉県、岐阜県、名古屋市(愛知県)

3月28日 滋賀県

7月18日 富山県、香川県、大分県

平成13(2001)年3月22日 佐賀県 5月10日 山梨県、川崎市(神奈川県)

7月19日 高知県 12月12日 福島県

平成14(2002)年3月20日 岩手県、宮城県、神奈川県、福岡県、仙台市(宮城県)

7月29日 北海道、長崎県

平成15(2003)年3月10日 沖縄県

平成16(2004)年5月26日 独立行政法人防災科学技術研究所

表2. 日本及びその周辺におけるマグニチュード(M)別の月別地震回数  
<平成18年(2006年)4月~平成19年(2007年)4月>

	M3.0 ～ M3.9	M4.0 ～ M4.9	M5.0 ～ M5.9	M6.0 ～ M6.9	M7.0 以上	計 M3.0以上	計 M4.0以上	記事
2007年4月	374	110	32	3		519	145	20日：宮古島北西沖(M6.3, M6.7, M6.1) 平成19年(2007年)能登半島地震の余震 (M3.0～3.9: 55回、M4.0～4.9: 8回)
2007年3月	474	106	13	3		596	122	8日：鳥島近海(M6.0) 9日：日本海北部(M6.2) 25日：平成19年(2007年)能登半島地震(M6.9) 平成19年(2007年)能登半島地震の余震 (M3.0～3.9: 231回、M4.0～4.9: 29回、 M5.0～5.9: 3回)
2007年2月	233	57	9	1		300	67	17日：十勝沖(M6.2)
2007年1月	244	113	24	2	2	385	141	13日：千島列島東方(M8.2) 14日：千島列島東方(M6.5) 25日：台湾付近(M6.1) 31日：マリアナ諸島(M7.1)
2006年12月	274	107	26	2	1	410	136	8日：千島列島東方(M6.4) 26日：台湾付近(M6.9, M7.2)
2006年11月	254	76	42	3	1	376	122	15日：千島列島東方(M7.9, M6.6) 16日：千島列島東方(M6.1) 18日：奄美大島近海(M6.0)
2006年10月	254	75	19	7		355	101	1日：千島列島東方(M6.8, M6.6) 9日：台湾南方沖(M6.1) 11日：福島県沖(M6.0) 12日：与那国島近海(M6.2) 13日：千島列島東方(M6.3) 24日：鳥島近海(M6.8)
2006年9月	268	62	10	1		341	73	28日：千島列島東方(M6.0)
2006年8月	263	57	10	1		331	68	7日：父島近海(M6.2)
2006年7月	232	40	3	1		276	44	28日：台湾付近(M6.2)
2006年6月	268	59	10	1		338	70	12日：大分県西部(M6.2)
2006年5月	239	53	4			296	57	
2006年4月	269	89	13	2		373	104	1日：台湾付近(M6.4) 16日：台湾付近(M6.0)
2007年計	1325	386	78	9	2	1800	475	(平成19年1月～平成19年4月)
過去1年計	3377	915	202	25	4	4523	1146	(平成18年5月～平成19年4月)

注)日本及びその周辺：原則、北緯20～49度、東経120～154度の範囲。「記事」欄には主にM6.0以上の地震について記載した。

## 世界の主な地震

4月に世界で発生したマグニチュード(M)6.0以上または被害を伴った地震の震央分布を図1に示す。また、その震源要素等を表1に示す。

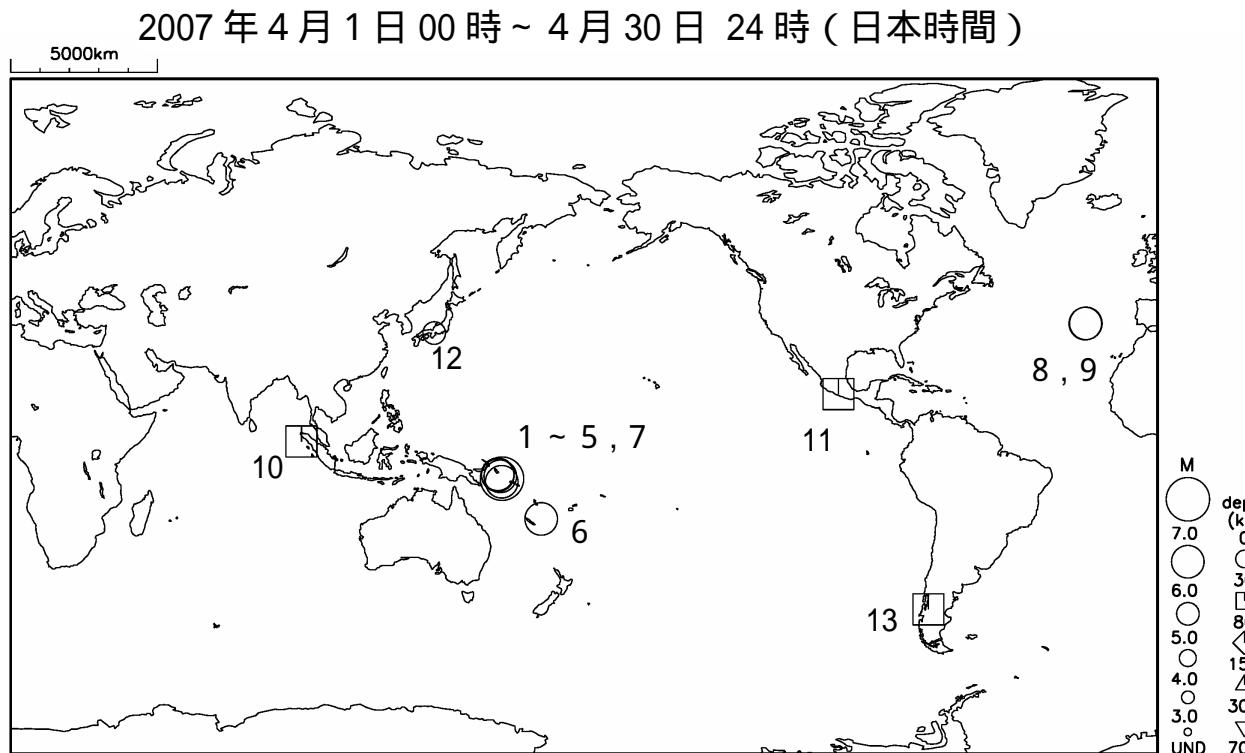


図1 2007年4月に世界で発生したM6.0以上または被害を伴った地震の震央分布

<震源要素は米国地質調査所(USGS)発表のQUICK EPICENTER DETERMINATIONS(QED)による>

\*: 数字は、表1の番号に対応する。

\*\*: マグニチュードはmb(実体波マグニチュード) Ms(表面波マグニチュード) のいずれか大きい値を用いて表示している。

ただし、mb, Msどちらの値も求められていない場合はMw(モーメントマグニチュード)の値を用いて表示している。

\*\*\*: 日本付近で発生した地震については、震源要素及びマグニチュードは気象庁による。

表1 2007年4月に世界で発生したマグニチュード6.0以上または被害を伴った地震の震源要素等

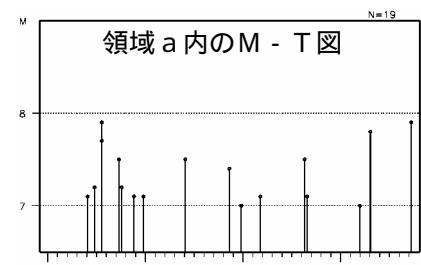
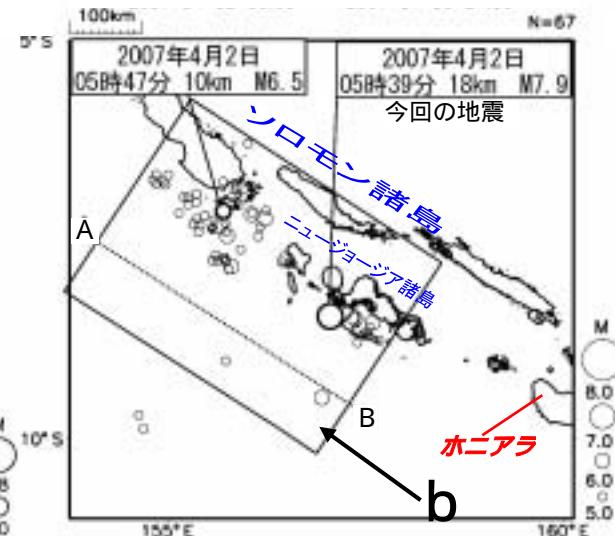
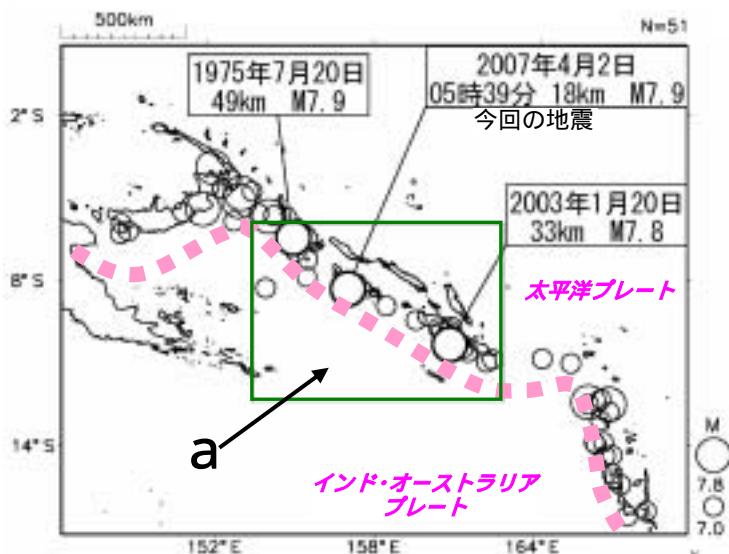
番号	月 日 時	緯度	経度	深さ (km)	mb	Ms	Mw	震央地名	備考 (被害状況など)
1	04月02日05時39分	S 8° 28.2'E	157° 02.6'	18	6.9	7.9	8.1	ブーゲンビル-ソロモン諸島	死者52人、住家被害約800棟など NWPTA発表
2	04月02日05時46分	S 9° 26.3'E	156° 56.2'	10	6.1			ブーゲンビル-ソロモン諸島	
3	04月02日05時47分	S 7° 13.3'E	155° 36.1'	10	6.6			ブーゲンビル-ソロモン諸島	
4	04月02日06時11分	S 7° 27.4'E	155° 45.0'	10	6.3			ブーゲンビル-ソロモン諸島	
5	04月02日06時15分	S 7° 20.1'E	155° 39.4'	10	6.0			ブーゲンビル-ソロモン諸島	
6	04月04日05時26分	S 20° 36.3'E	168° 58.3'	12	5.6	6.0	6.2	ローヤリティー諸島	
7	04月04日15時34分	S 7° 45.1'E	156° 29.4'	10	6.0	6.3	6.4	ブーゲンビル-ソロモン諸島	
8	04月05日12時56分	N 37° 20.5'W	24° 36.7'	14	6.1	6.2	6.3	アゾレス諸島	
9	04月07日16時09分	N 37° 22.2'W	24° 27.4'	8	6.0	5.9	6.1	アゾレス諸島	
10	04月07日18時51分	N 2° 55.4'E	95° 41.9'	30	5.7	6.2	6.1	インドネシア、スマトラ 北部西方沖	
11	04月13日14時42分	N 17° 19.1'W	100° 07.3'	34	6.0		6.0	メキシコ、ゲレロ州	
12	04月15日12時19分	N 34° 47.5'E	136° 24.5'	16	5.4	(5.4)		三重県中部	負傷者13人、住家一部破損122棟
13	04月22日02時53分	S 45° 16.4'W	72° 36.2'	27	6.2	6.3	6.2	チリ南部	

- 震源要素、被害状況等は米国地質調査所(USGS)発表のQUICK EPICENTER DETERMINATIONS(QED)による(2007年5月7日現在)。ただし、日本付近で発生した地震については震源要素及びマグニチュード(Msの欄に括弧を付して記載)は気象庁、被害状況は総務省消防庁による(2007年5月7日現在)。
- 時分は震源時で日本時間[日本時間=協定世界時+9時間]である。
- MwはUSGSのモーメントマグニチュードである。
- NWPTAは、気象庁が北西太平洋域に提供している北西太平洋津波情報である(地震・火山月報(防災編)2005年5月号参照)。

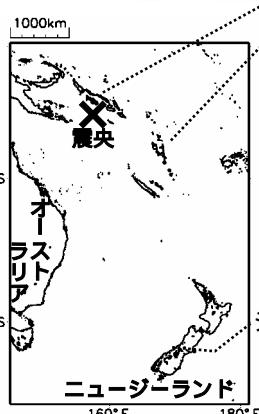
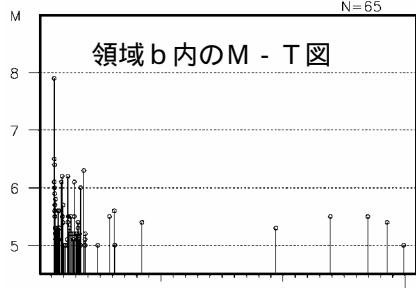
# 4月2日 ソロモン諸島の地震

4月2日05時39分(日本時間)ソロモン諸島でM7.9(米国地質調査所[以下、USGS]による表面波マグニチュード)の地震が発生した。この地震により津波が発生し、ソロモン諸島で死者52名などの被害を生じた(5月7日現在、USGSによる)。余震域は北西-南東方向の約400kmの領域に分布しており本震直後は北西側で活発となったが、その後は全体的に活動は減衰している。この地震について気象庁は、同日06時02分に「地域によっては破壊的な津波の可能性あり」の旨の「北西太平洋津波情報」を、06時11分に「太平洋の広域に津波の可能性」の旨の「遠地地震の地震情報」(日本国内向け)を発表した。この地震によりジャクソンベイ(ニュージーランド)の検潮所で38cmの津波を観測した。なお震源近傍のソロモン諸島沿岸ではより高い津波が来襲した模様である。今回の地震の震源付近はインド・オーストラリアプレートが、北東にある太平洋プレートの下に沈み込んでいるところで、今回の地震はこれらのプレート境界で発生した地震と考えられる。1970年以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近ではM7を超える地震が度々発生している。

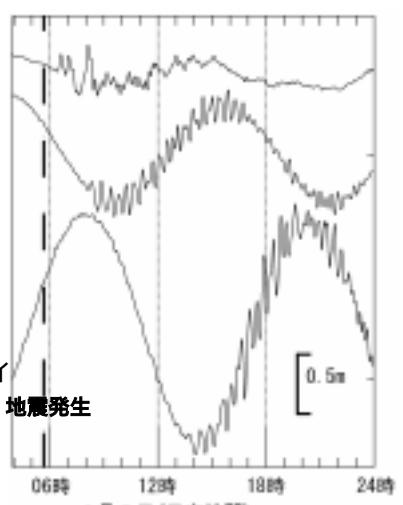
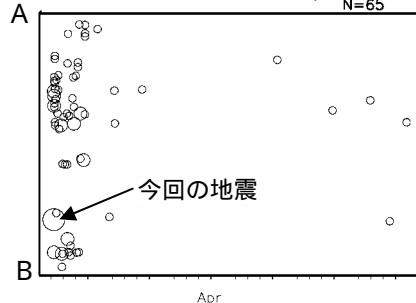
震央分布図(1970~2007年4月、M 6.0、深さ60km以浅)  
震源データはUSGSによる。■■■はおおまかなプレート境界を示す。



左図 今回の地震の発震機構  
(ハーバード大学によるCMT解、Mw8.1)



領域b内の時空間分布図(A-B投影)  
N=65



4月2日(日本時間)

津波が観測された周辺の検潮所の位置(上中図)と観測した津波の波形(右図)。■は津波の最大の発現時刻を示す。下表は津波の観測結果。津波の第一波は微弱であるため決定できない。

検潮所名(国名)	最大の高さ	
	発現時刻	高さ(cm)
ホニアラ(ソロモン諸島)	8:06	21
ポートビラ(バヌアツ)	11:08	15
ジャクソンベイ(ニュージーランド)	17:06	38

## 平成19年4月の主な火山活動

### 【噴火した火山】

#### 桜島 [比較的静穏な噴火活動(レベル2)]

南岳山頂火口で13日と17日にごく小規模な噴火が観測された。

#### 諫訪之瀬島 [活発な状況(レベル3)]

2日に爆発的噴火が発生した。

### 【活動が活発もしくはやや活発な状態であった火山】

#### 樽前山 [やや活発な状況]

A火口及びB噴気孔群は依然として高温の状態が続いていると推定される。

#### 御嶽山 [やや活発な状況]

火山性地震は、昨年12月から消長を繰り返しながらやや多い状態が続き、火山性微動も時々観測された。今期間、火山性地震は少ない状態で経過し、火山性微動は5日以降観測されていないが、火山活動は現在もやや活発な状態が続いていると考えられ、山頂付近では注意が必要である。

#### 三宅島 [やや活発な状況]

噴煙活動は活発で、多量の火山ガスの放出が続いている。

#### 硫黄島 [やや活発な状況]

国土地理院及び防災科学技術研究所の観測によると、昨年8月以降、島北部の元山地域付近で大きな隆起が続いている。

#### 福德岡ノ場 [やや活発な状況]

23日午前、第三管区海上保安本部に変色水が見られるとの通報があり、同日午後、第三管区海上保安本部が上空から行った観測によると、福德岡ノ場付近の海面に乳白色の変色水が確認されたが、噴煙や浮遊物は認められなかった。

16日及び27日に海上自衛隊が、24日、25日及び29日に第三管区海上保安本部が上空から行った観測でも、乳白色の変色水が確認された。

#### 薩摩硫黄島 [やや活発な状況(レベル2)]

噴煙活動はやや活発で、火山性地震のやや多い状態が続いている。

#### 口永良部島 [やや活発な状況(レベル2)]

火山性地震及び火山性微動のやや多い状態が続いている。

### 【静穏な状況であるが、観測データ等に変化のあった火山】

#### 伊豆大島 [静穏な状況(レベル1)]

29~30日にかけて、島北部で震度1を観測する地震が3回発生した。

#### 俱多楽 [静穏な状況]

期間外であるが、5月3日から大正地獄でごく小規模な泥混じりの熱湯の噴出が発生している。当初は高さ3m前後で連続的に噴出していたが、その後噴出は次第に弱まり、現在は高さ1~2mで断続的になっている。大湯沼や奥湯沼等の熱活動の状況に特段の変化はなく、今回の現象は局所的なものと考えられる。火山性地震の増加や火山性微動は観測されず、俱多楽の火山活動は静穏な状況である。

**注1** 本資料で示すレベルとは、現在12火山に導入している火山活動度レベルをいう。

**注2** 火山名に下線を引いた火山について、説明資料(火山活動解説資料)を配布。

**注3** 記号の意味

: 噴火した火山

: 活動が活発もしくはやや活発な状況の火山

: 静穏な状況であるが観測データ等に変化のあった火山、もしくはその他の記事を掲載した火山

## 解説を掲載した火山とその活動状況

【北海道地方】



【東北地方】



【関東中部地方、伊豆小笠原諸島】



【九州地方、南西諸島】



### 凡例

：火山活動が静穏な状況

：火山活動がやや活発な状況

：火山活動評価が活発な状況

注) 2重線を引いた数字はレベルを示す。

- |   |        |
|---|--------|
| — | ：レベル 1 |
| — | ：レベル 2 |
| — | ：レベル 3 |

：解説を掲載した火山

：解説を掲載した火山のうち噴火した火山

## 過去1年間の火山活動の状況（やや活発もしくは活発な状況であった火山）

火 山 名		平成18年								平成19年			
		5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
雌 阿 寒 岳	噴火活動												
十 勝 岳	噴火活動												
樽 前 山	噴火活動												
浅 間 山	噴火レベル												
御 嵐 山	噴火活動												
三 宅 島	噴火活動								11月				
硫 黄 島	噴火活動												
福 徳 岡 ノ 場	噴火活動												
阿 蘇 山	噴火レベル												
霧島山（新燃岳）	噴火レベル												
霧島山（御鉢）	噴火レベル												
桜 島	噴火レベル												
薩 摩 硫 黄 島	噴火レベル												
口 永 良 部 島	噴火レベル												
諏 訪 之 瀬 島	噴火レベル												

噴火が発生した場合 で示す。レベル及び活動は、火山活動度レベルが導入されている火山については火山活動度レベルを、それ以外の火山については活動評価をそれぞれ示す。

### 凡例

- ：火山活動が静穏な状況もしくはレベル1
- ：火山活動がやや活発な状況もしくはレベル2
- ：火山活動が活発な状況もしくはレベル3

### 2007年4月の火山情報発表状況

火 山 名	情報の種類及び号数	発表日時	火山活動評価	概 要
御 嵐 山	火山観測情報 第 17 号	6 日 16:00	やや活発	最近の火山活動評価。3月30日から4月6日15時までの活動状況。
	火山観測情報 第 18 号	13 日 16:00	やや活発	最近の火山活動評価。4月6日から4月13日15時までの活動状況。
	火山観測情報 第 19 号	20 日 16:00	やや活発	最近の火山活動評価。4月13日～4月20日15時までの活動状況。
	火山観測情報 第 20 号	27 日 16:00	やや活発	最近の火山活動評価。4月20日～4月27日15時までの活動状況。
三 宅 島	火山観測情報 第 14～17 号 (週1回発表)	6 日、13 日 20 日、27 日 16:30	やや活発	最近の火山活動評価、火山活動の状況（噴煙・火山ガス・地震）

## 全国の火山活動評価結果（4月30日現在）

### (1) 主な活火山(35火山)

最近の活動経過は、火山活動度レベル導入火山( )についてはレベル導入以降の、それ以外の火山( )については第101回火山噴火予知連絡会(平成17年6月21日開催)以降で最初に評価を明記した火山噴火予知連絡会開催日からの活動経過を示している。

	火山名	火 山 活 動 評 価	
		4月30日現在	最近の活動経過
北海道地方	雌阿寒岳	静穏な状況	平成17年6月21日 静穏 平成18年2月18日 やや活発 3月21日 【噴火】活発 4月12日 やや活発 5月25日 静穏
	十勝岳	静穏な状況	平成17年6月21日 やや活発 平成19年2月16日 静穏
	樽前山	やや活発な状況	平成17年6月21日 やや活発
	俱多楽	静穏な状況	平成18年2月28日 静穏
	有珠山	静穏な状況	平成17年6月21日 静穏
	北海道駒ヶ岳	静穏な状況	平成17年6月21日 静穏
東北地方	恵山	静穏な状況	平成17年11月2日 静穏
	岩手山	静穏な状況	平成17年6月21日 静穏
	秋田駒ヶ岳	静穏な状況	平成17年6月21日 静穏
	吾妻山	静穏な状況	平成17年2月1日 静穏
	安達太良山	静穏な状況	平成17年6月21日 静穏
関東・中部地方及び伊豆小笠原諸島	磐梯山	静穏な状況	平成17年6月21日 静穏
	那須岳	静穏な状況	平成17年6月21日 静穏
	草津白根山	静穏な状況(レベル1)	平成17年2月1日 静穏(レベル1)
	浅間山	静穏な状況(レベル1)	平成15年11月4日 やや活発(レベル2) 平成16年7月20日 静穏(レベル1) 7月31日 やや活発(レベル2) 9月1日 【噴火】活発(レベル3) 平成17年6月21日 やや活発(レベル2) 平成18年9月22日 静穏(レベル1)
	新潟焼山	静穏な状況	平成18年2月28日 静穏
	御嶽山	やや活発な状況	平成17年6月21日 静穏 平成19年1月19日 やや活発
	白山	静穏な状況	平成17年11月2日 静穏
	富士山	静穏な状況	平成17年6月21日 静穏
	箱根山	静穏な状況	平成18年11月14日 静穏
	伊豆東部火山群	静穏な状況	平成17年6月21日 静穏
	伊豆大島	静穏な状況(レベル1)	平成15年11月4日 静穏(レベル1)
	三宅島	やや活発な状況	平成17年6月21日 やや活発
	八丈島	静穏な状況	平成18年2月28日 静穏
	硫黄島	やや活発な状況	平成17年6月21日 静穏 平成19年1月9日 やや活発
	福德岡ノ場	やや活発な状況	平成17年11月2日 やや活発

	火山名	火 山 活 動 評 価	
		4月30日現在	最近の活動経過
九州地方・南西諸島	九重山	静穏な状況（レベル1）	平成17年2月1日 静穏（レベル1）
	阿蘇山	静穏な状況（レベル1）	平成15年11月4日 やや活発（レベル2） 平成16年1月14日 【噴火（土砂噴出）】 活発（レベル3） 2月13日 やや活発（レベル2） 平成17年4月14日 【噴火（土砂噴出）】 活発（レベル3） 5月13日 やや活発（レベル2） 平成18年1月20日 静穏（レベル1） 3月24日 やや活発（レベル2） 8月4日 静穏（レベル1）
	雲仙岳	静穏な状況（レベル1）	平成15年11月4日 静穏（レベル1）
	霧島山 (新燃岳)	静穏な状況（レベル1）	平成17年2月1日 静穏（レベル1） 平成18年2月1日 やや活発（レベル2） 5月22日 静穏（レベル1） 平成18年12月3日 やや活発（レベル2） 平成19年1月9日 静穏（レベル1）
	霧島山 (御鉢)	静穏な状況（レベル1）	平成17年2月1日 やや活発（レベル2） 平成18年5月22日 静穏（レベル1） 平成19年2月5日 やや活発（レベル2） 平成19年3月5日 静穏（レベル1）
	桜島	比較的静穏な噴火活動 (レベル2)	平成15年11月4日 比較的静穏な噴火活動 (レベル2) 平成18年6月12日 【昭和火口から噴火】 活発（レベル3） 8月18日 比較的静穏な噴火活動 (レベル2)
	薩摩硫黄島	やや活発な状況（レベル2）	平成17年2月1日 やや活発（レベル2）
	口永良部島	やや活発な状況（レベル2）	平成17年2月1日 やや活発（レベル2）
	諭訪之瀬島	活発な状況（レベル3）	平成17年2月1日 【噴火継続】 活発（レベル3）
	硫黄鳥島	静穏な状況	平成19年2月16日 静穏

## （2）その他の活火山（50火山）

以下の活火山では、いずれも火山活動は静穏な状況である。

	火 山 名
北海道地方	知床硫黄山、羅臼岳、摩周、アトサヌプリ、丸山、大雪山、利尻山、恵庭岳、羊蹄山、ニセコ、渡島大島
東北地方	恐山、岩木山、八甲田山、十和田、秋田焼山、八幡平、鳥海山、栗駒山、鳴子、肘折、蔵王山、沼沢、燧ヶ岳
関東・中部地方 及び伊豆・小笠原諸島	高原山、日光白根山、赤城山、榛名山、横岳、妙高山、弥陀ヶ原、焼岳、アカンダナ山、乗鞍岳、利島、新島、神津島、御藏島、青ヶ島
中国・九州地方 及び南西諸島	三瓶山、阿武火山群、鶴見岳・伽藍岳、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島

## （補足）評価対象外の活火山（23火山）

無人島：伊豆鳥島、西之島

岩礁あるいは岩：ベヨネース列岩、須美寿島、傭婦岩

海底火山：海形海山、海徳海山、噴火浅根、北福德堆、南日吉海山、日光海山、西表島北北東海底火山

北方四島：茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、押捉焼山、押捉阿登佐岳、ベルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山

## 世界の主な火山活動

平成 19 年（2007 年）4 月に噴火の報告された主な火山（日本を除く）は下図のとおりである。このうち、顕著な活動が見られた主な火山は以下のとおりである。

### ネバド・デル・ウイラ（コロンビア）（図中 A）

17 日及び 18 日に噴火し、噴煙高度は最高で海拔 11,300m に達した。噴火による土石流で、家屋や橋が流され、高速道路が数 km にわたって破壊された。これらの影響で約 5,000 人の人々が避難したが、死者及び負傷者の報告はない。

（以上、米国スミソニアン自然史博物館の G V P (Global Volcanism Program) による。日付は全て現地時間。火山名の読み方は、原則として気象庁「火山観測指針（参考編）」による。）

